

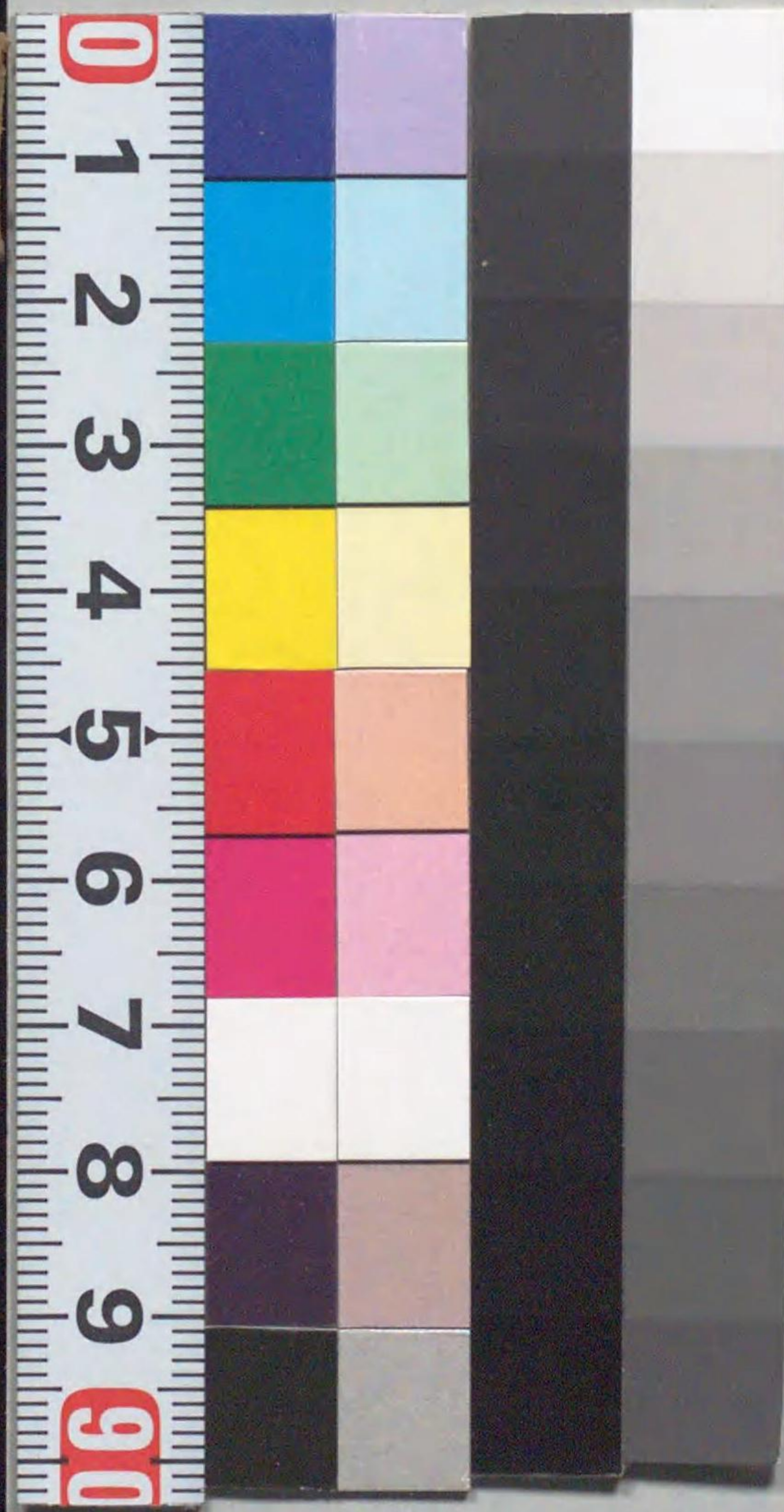
朝鮮ノ遞信事業

朝鮮總督府遞信局



Y994

J9942



○

昭和三年十月十八日

男爵 小畑大春郎君 寄贈

Y994

J9942

年次	預高				
	一圓	五圓	十圓	五十圓	百圓
1	1.040	5.230	10.460	52.310	104.620
2	1.090	5.490	10.980	54.940	109.890
3	1.140	5.760	11.520	57.700	115.420
4	1.190	6.040	12.090	60.600	121.230
5	1.240	6.340	12.690	63.650	127.330
6	1.300	6.650	13.320	66.850	133.740
7	1.360	6.980	13.990	70.210	140.470
8	1.420	7.320	14.690	73.740	147.540
9	1.490	7.680	15.420	77.450	154.970
10	1.560	8.060	16.190	81.350	162.770
11	1.630	8.460	17.000	85.440	170.970
12	1.710	8.880	17.850	89.740	179.580
13	1.790	9.320	18.740	94.260	188.620
14	1.870	9.780	19.680	99.000	198.120
15	1.960	10.260	20.660	103.980	208.100
16	2.050	10.770	21.690	109.210	218.580
17	2.150	11.300	22.770	114.710	229.590
18	2.250	11.860	23.910	120.490	241.150
19	2.360	12.450	25.110	126.550	253.300
20	2.470	13.070	26.570	132.920	266.060
25	3.120	16.680	33.680	169.920	340.170
30	3.960	21.290	43.020	217.250	434.940
35	5.010	27.170	54.960	277.750	556.130
40	6.370	34.700	70.230	355.120	711.090
45	8.100	44.330	89.760	454.050	909.230
50	10.310	56.650	114.740	580.570	1,162.610

年次	預高				
	十錢	五十錢	一圓	五圓	十圓
1	1.220	6.130	12.270	61.380	122.770
2	2.500	12.570	25.150	125.850	251.720
3	3.840	19.330	38.680	193.570	387.170
4	5.250	26.430	52.890	264.700	529.450
5	6.730	33.890	67.820	339.420	678.900
6	8.280	41.720	83.510	417.910	835.880
7	9.910	49.950	99.990	500.350	1,000.770
8	11.630	58.590	117.290	586.950	1,173.970
9	13.430	67.670	135.460	677.910	1,355.900
10	15.320	77.210	154.550	773.460	1,547.000
11	17.310	87.230	174.600	873.820	1,747.740
12	19.400	97.750	195.670	979.240	1,958.590
13	21.590	108.800	217.890	1,089.970	2,180.070
14	23.890	120.410	241.050	1,206.280	2,412.710
15	26.310	132.610	265.460	1,328.450	2,657.080
16	28.850	145.420	291.100	1,456.780	2,913.760
17	31.520	158.880	318.040	1,591.580	3,183.380
18	34.320	173.010	346.340	1,733.170	3,466.590
19	37.270	187.860	376.060	1,881.900	3,764.070
20	40.360	203.450	407.280	2,038.130	4,076.540
25	58.330	294.040	588.610	2,945.610	5,891.610
30	81.310	409.880	820.500	4,106.020	8,212.580
35	110.690	557.980	1,117.010	5,589.860	11,180.440
40	148.250	747.400	1,496.170	7,487.250	14,975.490
45	196.290	989.600	1,981.000	9,913.490	19,828.270
50	257.710	1,299.310	2,600.960	13,015.960	26,033.590

郵便貯金元利積算表

利率年五分四毛

(四内地八厘)



I種

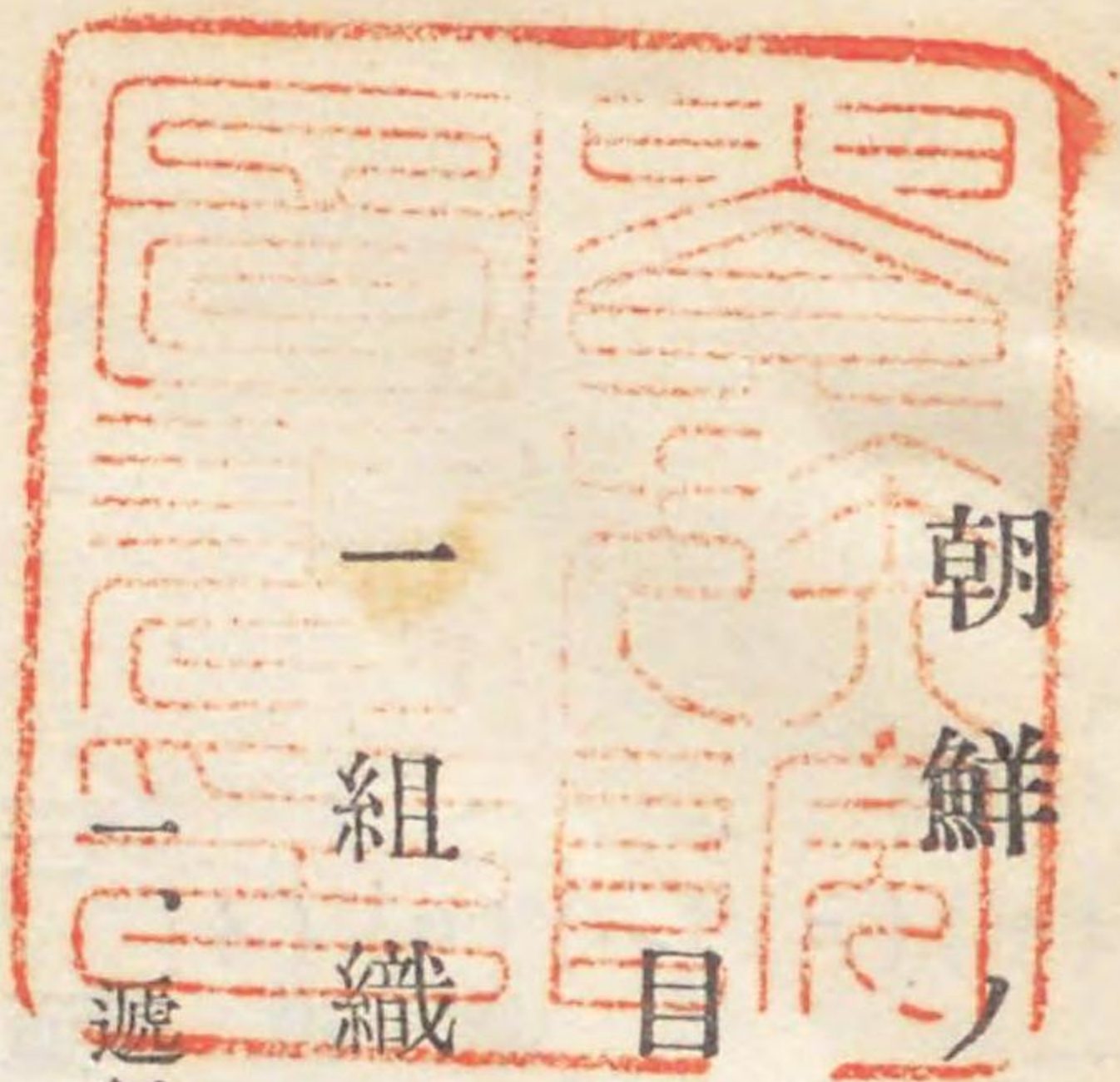
W

1200901197335

朝鮮
遞信事業
沿革

朝鮮ノ遞信事業

目次



- 一 組織及職員……………一
- 二 遞信官署ノ沿革……………一
- 三 所屬職員……………六
- 四 吏員養成……………八
- 五 現業員共濟組合……………一
- 六 職員衛生……………三
- 一 通 信……………三
- 一 通信事業ノ沿革……………三

二、通信事業ノ概況……………	二六
(イ) 郵便局所ノ普及狀況……………	二六
(ロ) 通信線路……………	一八
(ハ) 朝鮮ニ於ケル特殊施設……………	二二
(ニ) 通信機關ノ組織……………	二四
(ホ) 朝鮮人ニ對スル事業ノ普及宣傳……………	二五
(ヘ) 通信事業利用ノ狀況……………	二六
三、通信事業合同當時ト現今トノ比較……………	三一
(イ) 通信力ノ比較……………	三一
(ロ) 郵便局所ノ比較……………	三一
(ハ) 電信電話機關ノ比較……………	三一
(ニ) 郵便遞送線路ノ比較……………	三一
(ホ) 電信電話線路ノ比較……………	三一

一 海

一、海運事業ノ沿革……………	三四
二、船 舶……………	五五
三、海 員……………	六〇
四、航 路 標 識……………	六三
五、海 員 審 判……………	六四

一 電

一、電氣事業ノ沿革……………	六五
二、電氣事業ノ現況……………	六六
三、電氣計器ノ檢定……………	七三
四、瓦斯事業……………	七四
五、電氣職工ノ養成……………	七四

六、發電水力調査……………七五

一 遞信歲計……………七七

朝鮮ノ遞信事業

組織及職員

一、遞信官署ノ沿革

明治三十八年二月帝國政府ト韓國政府トノ間ニ日韓議定書ノ締結セララルヤ先ツ韓國通信機關ノ全部ヲ我國ニ於テ管理經營スルノ不得已ヲ認メ其ノ協約案ヲ樹テ同三十八年四月韓國通信機關委託ニ關スル取極書ノ調印ヲ了シ我政府ハ同年五月之ヲ中外ニ宣布セリ而シテ我政府ハ右取極書ヲ發表スルト同時ニ引繼委員ヲ任命シ幾多ノ難關ヲ排シ迂餘曲折三十八年七月一日總テ之カ引繼ヲ完了セリ

明治三十九年一月初メテ統監府通信官署官制發布セラレ統監府通信管理局、郵便局、郵便所及取扱所ノ設置ヲ見茲ニ系統上遞信省ヲ離レ韓國ニ於ケル帝國通信事業ノ一切ノ組織ヲ完成セリ

明治四十三年八月日韓併合成ルニ及ヒ朝鮮總督府設置セラレ尋テ同年十月朝鮮總督府通信

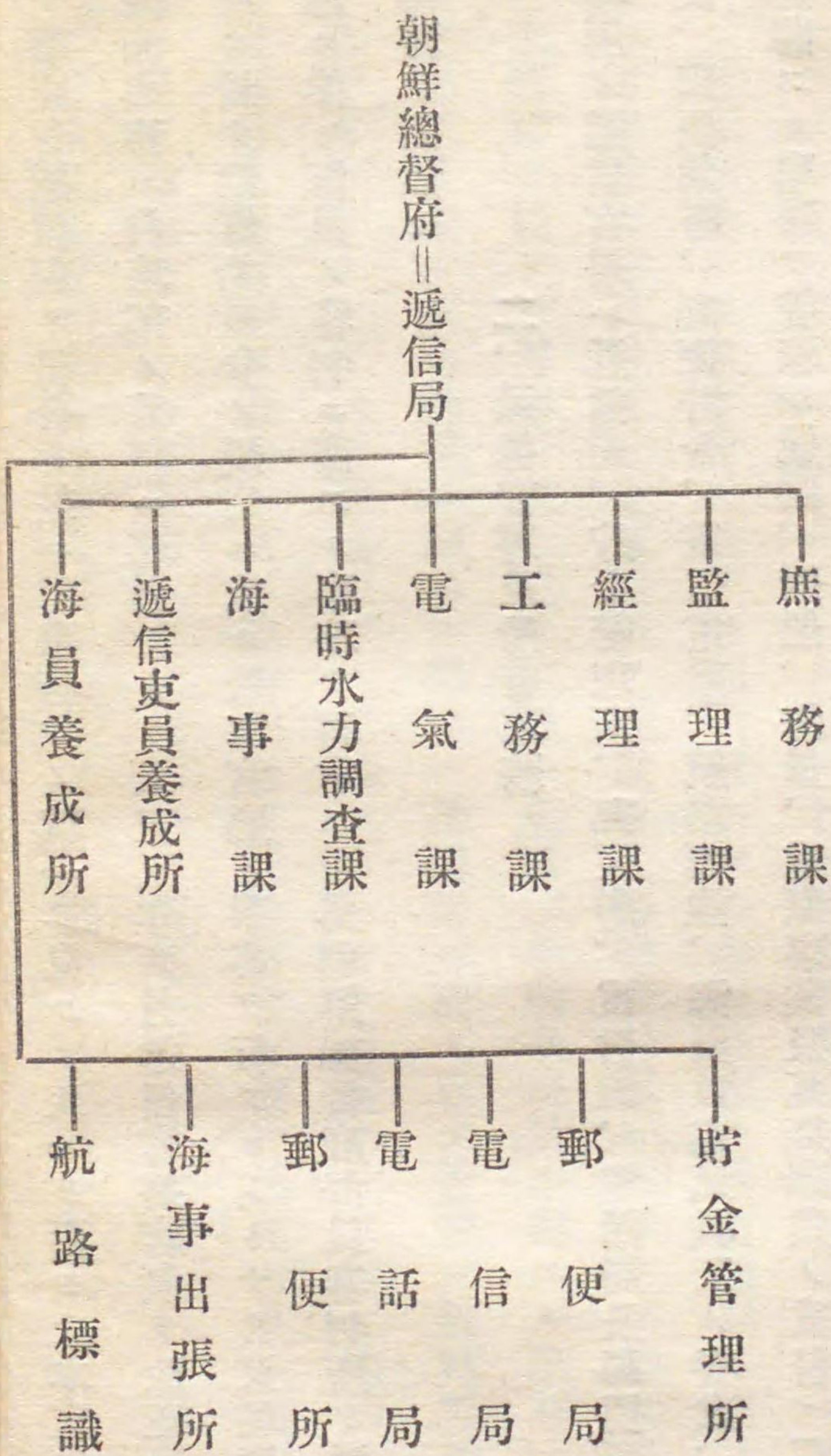
官署官制施行トナリ統監府通信管理局ヲ通信局ト改稱シ通信行政事務ト共ニ航路標識、氣象及電氣事業監督ニ關スル事務ヲ掌理シ、管理事務分掌局ヲ京城、釜山、元山及平壤ノ四局ニ定メラレタリ、尙大正三年三月ヨリ清津局ヲ管理事務分掌局ニ指定ス郵便爲替貯金管理事務ニ就テハ其ノ一部ヲ除キ遞信省ト協定ヲ遂ケ便宜郵便爲替貯金管理所（現時ノ貯金局）ニ於テ之ヲ執行シタリシカ三十九年十一月之ヲ統監府通信管理局ニ於テ掌理スルコトトシ爾來事業ノ増進ニ伴ヒ之ヲ分割掌理スルノ必要ヲ認メ通信局以外別ニ明治四十三年十月朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所ヲ設置シ之等檢査計算ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理セシム從來朝鮮ニ於ケル海事行政ハ之ヲ二分シ航路、船舶及海員ニ關スル事務ハ度支部及稅關ニ於テ之ヲ管理シ航路標識ニ關スル事務ハ通信局ニ於テ之ヲ管理シ航路標識管理所ヲシテ之ヲ執行セシメタルカ同一系統ハ下ニ配屬セシムルノ適當ナルヲ認メ同四十五年三月朝鮮總督府通信官署官制ヲ廢止シ更ニ朝鮮總督府遞信官署官制ヲ公布セラレ通信局ヲ遞信局ト改稱シ度支部所管タル海事事務ハ全部遞信局ノ所管ニ移シ又稅關ニ於テ執行シタル海事事務ハ仁川外四箇所ニ遞信局出張所ヲ置キ之ヲ分掌セシメ同時ニ仁川ニ於ケル航路標識管理所ヲ廢止シ遞信局ニ併合シ茲ニ海事行政ノ統一ヲ見ルニ至レリ而シテ本官制改正ニ伴ヒ氣象觀測事務ハ內務部ノ管理ニ移屬シタリ大正三年六月遞信官署官制ヲ改正シ指定シタル郵便局ニ於テ朝鮮船員令ノ規定ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行フコトトナリ又朝鮮海員懲戒令ノ實施ニ伴ヒ海員ノ審判ニ關スル事務ヲ司掌スル爲朝鮮總督府海員審判所ヲ遞信局内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

二、遞信官署及所管事務

朝鮮ノ遞信官署ハ遞信局、貯金管理所、郵便局、電信局、電話局及郵便所トシ遞信局ハ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信電話、航路標識、海員並電氣職工ノ養成、發電水力及航空ニ關スル事務ヲ管理シ航路、船舶、海員、電氣事業及瓦斯事業ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル貯金管理所ニ於テハ郵便爲替貯金ノ檢査計算ニ關スル事務ヲ掌リ郵便局及郵便所ニ在リテハ郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務ヲ掌リ電信電話又ハ海事ニ關スル事務ヲモ兼掌セシムルコトヲ得電信局ハ電信ニ關スル事務ヲ、電話局ハ電話ニ關スル事務ヲ掌理シ外ニ電信取扱所、電信電話所アリ又總督ノ指定シタル遞信官署ハ國庫金ノ出納並郵便物ノ出港稅ニ關

スル事務ヲ掌ル而シテ遞信局ノ管掌事務ヲ分掌セシムル爲郵便局ヲ指定シ區域ヲ定メテ郵便局所ノ監督監察ニ關スル事務ヲ掌理セシム又別ニ海事ニ關スル事務ヲ分掌セシムル爲地方ニ海事出張所ヲ置ケリ

(備考) 貯金管理所ハ内地ノ貯金局ニ又郵便所ハ三等郵便局ニ當ル



管理事務ヲ分掌スル郵便局並其ノ受持區域

分掌局名	受持區域
京城郵便局	京畿道、忠清南道、忠清北道、全羅北道、江原道 (淮陽、通川、高城、襄陽、江陵、三陟、蔚珍、金化、鐵原、平康、伊川ノ各郡ヲ除ク)
釜山郵便局	慶尙南道、慶尙北道、全羅南道、江原道ノ内蔚珍郡
元山郵便局	咸鏡南道、江原道 (淮陽、通川、高城、襄陽、江陵、三陟、金化、鐵原、平康、伊川ノ各郡)
平壤郵便局	平安南道、平安北道、黃海道
清津郵便局	咸鏡北道

海事ニ關スル事務ヲ分掌スル出張所並其ノ分掌區域

名稱	分掌區域
朝鮮總督府遞信局	
仁川海事出張所	京畿道、忠清南道、忠清北道、黃海道長山串以南
釜山海事出張所	慶尙南道、慶尙北道

四、吏員養成

朝鮮ニ於ケル遞信吏員ノ養成ハ明治四十一年ニ起リ爾來年年養成ヲ繼續セシカ猶小規模タルヲ免レサリキ、然ルニ時恰モ大戦ノ時局ニ際シ從事員ノ拂底其ノ極ニ達スルヤ從來ノ養成機關ヲ革新擴張スルノ要ヲ認メ大正七年一月始メテ遞信吏員養成所ヲ設置シ爾來毎年養成人員ヲ増加シテ現今ニ至レリ、今同所ニ於テ養成スル傳習生ノ種類及其ノ概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

普通科通信生 本科生ハ年齢十四歳以上二十歳以下(郵便所ニ勤務スル者ハ二十五歳迄)ノ男子又ハ十四歳以上ノ家事ニ繋累ナキ女子ニ高等小學卒業程度ノ試験ヲ行ヒ選抜入學セシメ當局遞信吏員養成所及釜山、平壤、元山、清津ノ各郵便局ニ於テ養成ス而シテ本科生ハ之ヲ第一部、第二部、第三部ノ三部ニ分チ第三部普通科通信生ハ郵便所長ノ推薦トス。第一部普通科通信生ハ専ラ電信事務ニ第二部普通科通信生ハ郵便電信事務共通ニ第三部普通科通信生ハ郵便所ノ一般現業事務ニ從事セシムルモノニシテ養成期間ハ第一部、第二部普通科通信生ハ何レモ一箇年間、第三部普通科通信生ハ五箇月間トス在學中ハ日額八十五錢

以內ノ手當金ヲ支給シ卒業後第一部、第二部普通科通信生ハ直ニ郵便局所ノ雇員ニ採用シ初任月收約四十圓乃至五十圓アリ漸次増給セシメ成績優秀ナル者ハ判任官ニ登用ス又第二部普通科通信生ハ相當増給ノ上推薦郵便所ノ雇員ニ採用ス

高等科通信生 本科生ハ近來鮮内各局ニ於ケル高等通信機ノ年々増加スル趨勢ニ鑑ミ之ニ策應セシムルタメ之等通信機運用者ヲ育成供給シ併テ普通科通信生卒業者ニ向上ノ途ヲ與フル趣旨ノ下ニ養成スルモノニシテ既ニ第二回ノ卒業生ヲ出シ夫々主要局ニ配置シ實務ニ就カシメタリ、本科ニ入學セシムル者ハ普通科通信生卒業後六箇月以上實務ニ從事シタル年齢二十三歳以下ノ男子中ヨリ選抜シ在職ノ儘入學ヲ命シ一箇年間當局遞信吏員養成所ニ於テ専ラ高等通信術及中等程度ノ學科ヲ授ケ卒業後ハ漸次判任官ニ任用ス

工務生 本科生ハ卒業後部内電信電話ノ工務ニ從事セシムルモノニシテ年齢十七歳以上二十五歳以下ノ男子ニ中學三年程度ノ試験ヲ行ヒ選抜入學セシメ十箇月間當局遞信吏員養成所ニ於テ養成ス在學中ハ手當金日額一圓ヲ支給シ卒業後ハ直ニ工手(雇員)ニ採用ス初任五十圓乃至六十圓ノ月收アリ、成績技倆ニ應シ順次増給セシメ優秀ナルモノハ遞信技手(判

任官)ニ登用ス

航路標識生 本科生ハ卒業後鮮内ニ於ケル航路標識ノ業務ニ從事セシムルモノニシテ年齢二十歳以上三十五歳以下ノ男子ニ高等小學卒業程度ノ試験ヲ行ヒ選拔入學セシメ在學中ハ手當金日額一圓ヲ支給ス卒業後ハ助手ニ採用シ凡ソ一年内外ニ航路標識看寸(判任官)ニ任用ス初任給其他前記工務生ト略々同様ナリ

依託練習生 本科生ハ部内ニ於ケル優良ナル從事員又ハ部外者ニシテ郵便局所長ノ推薦スル年齢十七歳以上二十五歳以下ノ男子ニ中學卒業程度ノ試験ヲ行ヒ選拔シ東京遞信官吏練習所ニ二箇年間依託入學セシメ斯業ニ關スル専門的ノ學藝ヲ修メシムルモノニシテ第一部行政科、第二部行政科、技術科及無線通信科ノ四部ニ分ツ在學中月手當四十圓ヲ支給シ且ツ被服類ヲ貸與ス卒業後ハ判任官ニ任用シ將來斯業ノ中堅トナルヘキ人物ヲ培フモノトス朝鮮人判任官見習生 本科生ハ部内鮮人從事員中ノ有能者ヲ選拔シ在職ノ儘入學セシメ斯業ニ關スル學術ヲ修習セシメ將來鮮人從事員ノ中堅タルヘキ人材ヲ養成スルモノニシテ既ニ第一回ノ卒業生ヲ出セリ卒業後ハ判任官ニ登用ス養成期間等略々高等科通信生ト同様ナ

五、現業員共濟組合

遞信官署ニ於ケル職員中最多數ヲ占ムル現業員ニ對シ相互救濟ノ保障ヲ與フルノ必要ヲ認メ大正十年一月一日遞信官署現業員共濟組合ヲ創設シ組合員ノ掛金ト政府補給金トヲ以テ共濟ノ原資トシ雇員以下ノ現業員ヲシテ擧ケテ其ノ惠澤ニ浴セシメ以テ事業ノ完全ナル遂行ニ資セリ而シテ本組合ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬シ遞信局長之ヲ管理シ組合員ヲ甲乙ノ二種ニ分チ共濟給與金ヲ殉職、傷痍、疾病、特症、療養、醫療、産婦、死亡、葬祭、災害、脱退及勤續ノ十二種ニ區別セリ

今本組合最近ノ概況ヲ擧クレハ

組合員總數九千二百六十五人 組合ノ資産八十三萬九千九百八十六圓 上リ大正十年度以降本規程ニ基キ組合員ニ給與シタル共濟金ハ受給者一萬九千三百五十六名其ノ金額六十萬三千七百七十八圓ニシテ其ノ種別金額左ノ如シ

殉職給與金

一六八

一四、九三一圓

傷痍給與金	三六八	八、六七三圓
疾病給與金	一人	六四八圓
療養給與金	四四四人	一四、三四二圓
醫療給與金	五人	四三圓
產婦給與金	二人	五三圓
死亡給與金	二九四人	七一、三三〇圓
葬祭給與金	三人	一〇四圓
災害給與金	五〇九人	九、二〇五圓
脫退給與金	一五、二五四人	三七五、一九六圓
勤績給與金	二、七九二人	一一九、二五一圓

一一

尙附帶事業トシテ組合員若ハ家族カ不慮ノ災厄ニ罹リ生計窮迫シタル者ヲ保護救濟ノ目的ヲ以テ低利貸付金制度ヲ設ケ大正十四年四月ヨリ實施シ又組合員ノ福利増進施設トシテ組合員ノ生計ニ必要ナル物品又ハ辨當供給ノ目的ヲ以テ購買組合ヲ組織シ之カ資金ヲ要スル

局所ニ對シ共濟組合資金中ヨリ融通貸付ノ途ヲ開キ昭和二年九月ヨリ之ヲ實施セリ

六、職員衛生

最近年度遞信部内ニ於ケル吏員(雇員以上)ノ疾病ニ依ル缺勤ヲ調査スルニ非現業員ハ度數三百六十九度缺勤延日數三千七百三十七日、現業員ハ度數三千六百三十三度缺勤延日數二萬二千六十九日ニシテ平均非現業員ハ一人ニ付度數〇度二五缺勤日數二日五四、現業員ハ一人ニ付度數〇度六六缺勤日數三日九九ニ當ル又本年度中吏員ノ疾病ニ依ル退職者ハ二百六十三人(内死亡三十七人)ニシテ前年度ニ比シ二十八人(内死亡二十三人)ヲ減セリ

通信

一、通信事業ノ沿革

往時韓國ニ於テ郵便制度ト稱シ得ヘキモノハ稅關相互間ニ往復スル文書ノ送達ニ於テ僅ニ其ノ形態ヲ認ムルニ過キサリシカ明治二十九年内地人ヲ郵政顧問ニ備聘シ我郵便條例ニ倣ヒ郵遞規則ヲ制定シ茲ニ初メテ不完全ナカラ近世の郵便制度ノ創始ヲ見ルニ至レリ其ノ後

幾多ノ變遷ヲ經着々改善施設ニ勗ムル所アリシモ其ノ成績依然トシテ萎靡不振ノ狀況ニア
リシモノ、如シ、サレバ韓國政府ハ通信事業ノ經營ニ對シ年々多大ノ損失ヲ繼續シ其ノ財
政益々困難ニ陥リ事業ノ刷新普及ハ到底期待スル能ハサルニ至レリ

帝國政府カ韓國ニ於テ通信事業ヲ創始シタルハ明治九年十一月釜山郵便局ヲ設置シタルニ
始マリ其ノ後各地ノ開港ニ伴ヒ内地人ノ移住者亦漸次増加シタルヲ以テ左記主要地ニハ夫
々郵便局又ハ出張所ヲ設置シタリ

- 明治十三年四月 元山
- 同 十六年十二月 仁川
- 同 二十一年四月 京城
- 同 三十年十月 木浦
- 同 三十二年七月 鎮南浦
- 同 三十二年十一月 群山、馬山
- 同 三十四年三月 城津

同 三十四年六月

平壤

三十七八年戰役ニ際シ時ノ韓國政府ハ自國ノ現況ニ鑑ミ其ノ經營セル通信事業ヲ舉テ帝國
政府ノ管理ニ委託スルヲ得策ナリト思惟シ帝國政府ト協議ノ結果遂ニ明治三十八年四月韓
國通信機關委託ニ關スル取極書ヲ締結シ同年七月ニ至リ從來併立セシ日韓同種ノ機關ヲ合
同統一シ茲ニ朝鮮郵政史上一大革新ノ時期ヲ畫スルニ至レリ

而シテ其ノ後統監府ノ設置セラレ、ヤ朝鮮ニ於ケル通信事業ハ舉テ之ヲ統監ノ管理ニ屬セ
シメ次テ明治四十三年韓國併合ノ大業成リ朝鮮總督府設置ト共ニ通信事業亦其ノ管理ノ下
ニ屬シ以テ今日ニ至ル、其ノ間或ハ暴徒騷擾ノ爲幾多ノ人命ヲ犠牲ニ供シ、或ハ爲ニ郵便
局所ヲ一時閉鎖シタルコトアリ又歐洲戰亂ノ影響ニ由ル事務ノ激増竝物價ノ奔騰ニ因ル經
營ノ困難、民族自決ノ妄信ニ基ク萬歲騷動等業務遂行上幾多障礙頻出セシモ幸々トシテ其
ノ普及擴張ヲ圖リ今ヤ局所(電信電話所並鐵道驛
電車取扱所ヲ含ム)ノ配置ハ都鄙ヲ通シ七百七十六ニ達シ合同當
時ニ比シ實ニ三百三十一ヲ増加セルノミナラス其ノ取扱ノ内容ハ合同當時ニ於テハ僅ニ通
常郵便ノミヲ取扱ヘル郵遞所大半ナリシモ漸次小包郵便、電信、電話、爲替貯金等ノ取扱

ヲ爲ス局所ニ改メタル等其ノ取扱ノ内容ニ對シ著シキ改善ヲ施シタリ

二、通信事業ノ概況

(イ) 郵便局所ノ普及狀況

郵便局所數ハ全鮮ヲ通シ六百六十六ニシテ面積二十一万里人口二萬八千五百人ニ對シ一局所設置ノ割合ナリトス而シテ右郵便(電信、電話)局所中電信事務ヲ取扱フ局所六百十五電話通話事務ヲ取扱フ局所六百十二アリ又電信、電話ノミヲ取扱フ局所トシテ電信局三、電話局一、電信電話所七ニシテ尙鐵道驛ニ於ケル電信線ヲ利用シ公衆電報ノ取扱ヲ爲サシメツ、アルモノ九十九箇所アリ

郵便取扱局所分布並郵便物數ノ比較

區別	局所數	一 局所當		人口一ニ對スル發出郵便
		面積	人口	
朝鮮	六六六	二〇四九 ^{方里}	二八、六八五 ^人	一〇通
内地	八、七〇五	三〇〇七	六、八一	七三

電信取扱局所分布並電報數ノ比較

區別	局所數	一 局所當		人口一ニ對スル發出電報
		面積	人口	
臺灣	二二八	一〇、七〇	一八、三三	一五
内地	二〇四	一一、二	四、七九八	四五
南洋	七	四四、五	三、八四〇	二四

電話取扱局所分布並電話加入者數ノ比較

區別	局所數	一 局所當		人口一ニ對スル發出電報
		面積	人口	
朝鮮	七六	一九、七一 ^{方里}	二六、三二四 ^人	三
臺灣	六、七九六	三、九七	九、五九五	一〇
内地	一六〇	一五、七六	二六、九八八	三
南洋	五	四二、五四	三、七〇〇	四五
東廳	一五七	一〇、元	六、五〇八	一九
南關樺	七	一	一	一

區別	局所數	局所當		加入者總數
		面積	人口	
朝鮮	六〇〇	三〇、八一三	二七、五六六	
內地	四、四五二	一三、四二二	四九四、七九三	
臺灣	一三七	二九、二五五	一一、三三八	
關東	七四	一三、八〇八	一四、三二一	
樺太	二四	九七、五〇〇	二、七二一	
南洋	一			

(口) 通信線路

(一) 郵便線路

鐵道延長千八百十七哩、陸路延長三千六十八里、水路延長一萬三千三百五十六海里ニシテ陸路ニ於テハ朝鮮ニ於ケル道路ノ發達良好ナル關係上自動車交通頗ル發達セルヲ以テ概ネ之ヲ郵便遞送ニ利用シ自動車遞送線路延長千八百五十六里ニ及ヒ郵便物ノ速達上多大ノ利便ヲ得タルカ尙各線路ニ於ケル便數ニ依リテ一日延里程ヲ表示スレハ左ノ如シ

陸路 遞送線路 五、七七二里

內 自動車遞送線路 三、五二二里

水路 遞送線路 四、三三三哩

鐵道 同 八、九六五哩

(二) 電信、電話回線

上有線

陸上電信線亘長二、一一〇里。延長八、五七六里。海底電信線(朝鮮內)亘長四九里。延長五七里。電話線亘長二、〇一九里。延長二七、四〇七里。海底電話線亘長一里。延長四一里ニシテ各地ノ通信狀況ニ照シ地方都邑ノ連絡ノ完成ヲ圖ルト共ニ朝鮮ト内地、滿洲ノ主要地トノ間ニ左記ノ如ク直通線ヲ架設シ通信ノ圓滿ナル疏通ヲ圖レリト雖近時通信力ノ増加ニ伴ヒ改良増設ヲ要スルノ急ナルモノアルヲ以テ全鮮各地發展ノ趨勢ニ鑑ミ豫算ノ關係施設ノ緩急ヲ考慮シ漸次整備擴張ヲ企圖シツ、アリ殊ニ近時滿洲トノ交通經濟關係ハ益密接トナリタルヲ以テ互地間連絡電話實施ノ緊要ヲ認メ大正十四年十一月ヨリ京城以北主要地ト滿洲、安東縣及奉天トノ通話ヲ開始セシカ尙進ンテ奉天以遠各地トモ通

話開始方計畫中ニ屬ス又電信線トシテハ豫テ計畫中ノ京城大阪間一線増設工事竣工ニ付
大正十五年二月ヨリ通信開始セリ尙朝鮮ニ於テハ警備ノ必要ニ基ク警備電話回線延長
三、八九二里ニ及ヒ全鮮各地方ニ架設普及セルニ依リ之ヲ公衆電信及電話ノ通信ニ利用
シ以テ通信疏通上多大ノ利便ヲ得ツ、アリ

朝鮮内地間電信直通回線

京城東京間

京城大阪間

京城下關間

釜山大阪間

釜山下關間

元山松江間

朝鮮滿洲間直通電信回線

京城大連間

京城奉天間

京城安東縣間

平壤安東縣間

新義州安東縣間

朝鮮滿洲間直通電話回線

平壤安東縣間

2 無線

從來朝鮮ニ於テハ三ヶ所ノ燈臺ニ於テ各燈臺間ノ通信及海軍艦船ト中繼通信ヲ爲スヲ目
的トシテ小規模ノ無線電信機ヲ設置シ併テ近海航路ノ船舶トノ警報通信及海難救助ノ用
ニ供シタルニ止マリ公衆通信ノ取扱ヲ爲スヘキ無線電信局ノ設置ナカリシカ大正十二年
四月陸軍所管無線電信ノ移管ヲ受ケタルヲ以テ京城府龍山ニ京城無線電信局ヲ設置シタ
ルヲ初トシ最近更ニ木浦及濟州無線電信局ヲ設置シ公衆通信ノ取扱ヲ開始セルカ右ノ内
京城無線電信局ハ從來ノ設備ヲ擴張シテ在來ノ龍山局舎ヲ送信所トシ別ニ清涼里ニ受信
所ヲ設ケ京城中央通信所ニ於テ通信ヲ送受スル装置ヲ爲スコトトナレルノ外近ク釜山ニ
海岸無線電信局ヲ設置ノコトトナレリ現在管内無線電信局ノ交信範圍左ノ如シ

京城無線電信局

大連・秦皇島・角島・金澤・朝鮮近海航行船舶關釜連絡船等

本浦無線電信局
濟州無線電信局

朝鮮近海航行船舶、關釜連絡船及朝鮮本土濟州島間連絡通信

3 放送無線電話

大正十五年十一月三十日社團法人京城放送局ノ設立ヲ許可セララル、同局ハ昭和二年二月
十六日ヨリ放送ヲ開始ス同年三月末ニ於ケル聽取者ハ内地人一、四八一朝鮮人三三六

人外國人一二人合計一、八二九人ナリ

(ハ) 朝鮮ニ於ケル特殊施設

通信事業ノ各種施設ハ概ネ内地同様ノ制度ヲ採用シ彼我共通ノ取扱ヲ爲スト雖モ内地其ノ他ノ殖民地ト事情ヲ異ニスルモノアルヲ以テ制度上自ラ異レルモノアリ今其ノ主要ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 郵便

1、普通小包ノ取扱ヲ爲サス

2、小包郵便ノ出港税、賦課徴收ノ事務ヲ取扱フ

(二) 電信

1、諺文電報(朝鮮固有ノ文
字ニ依ル電報)ノ取扱ヲ爲ス

(三) 電話

1、市外發受用電話ノ制ヲ設ク

加入區域外ノ地ニ於テ電話通話事務ヲ取扱フ郵便局所トノ間ニ電話ノ施設ヲ爲シ其ノ電

話機ニ依リ市外通話ヲ爲ス制度ノ施設ナリ則チ市外通話ノミヲ目的トスル簡易電話交換設備トス

2、警備電話ノ利用

警備上ノ目的ニ基ク警備電話ヲ公衆ノ利用ニ供ス

3、軍用電話ノ制

軍隊ノ必要ニ基キ郵便局ノ中繼ニ依リ又ハ軍隊相互間軍用ニ關スル通話ヲ爲サシムル制度ナリ

(四) 爲替貯金及其ノ附帶業務

1、高額の爲替ノ取扱

金融機關ノ不備ヲ補フ必要上特ニ認可ヲ受ケタルモノハ證書一枚ノ金額ヲ規定ノ制限額以上ニ高ムルコトヲ得セシム

2、朝鮮人郵便貯金一部拂殘置額低下

朝鮮人ノ民度低キニ鑑ミ貯金ノ拂戻殘置額ヲ十錢(内地人ハ五十錢)ニ低下ス

3、朝鮮人用諺文貯金通帳ノ發行

從來内地人ニ對シテハ和文貯金通帳朝鮮ニ對シテハ諺文貯金通帳ヲ發行シタルモ現在ニテハ之ヲ改メ和諺兩文ニテ注意文ヲ記載シタル貯金通帳ニ統一セリ

4、郵便振替貯金高額拂出

爲替高額振出認可ト同様ノ理由ニ基キ振替貯金拂出書ニ對シテモ高額拂出認可ノ制ヲ認ム

5、開市日ニ於ケル爲替貯金事務ノ取扱

日曜日ニ於テハ爲替貯金等ノ取扱ヲ爲ササルモ朝鮮ニ於ケル地方金融ノ實情ニ鑑ミ日曜日カ開市日ニ相當スル場合ニハ特ニ其ノ取扱ヲ爲サシム

6、國庫金ノ取扱

内地ニ於テハ各廳歲入歲出金ノ取扱ヲ爲スモ朝鮮ニ於テハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ歲入歲出金ニ限り之カ取扱ヲ爲ス

(ニ) 通信機關ノ組織

通信機關ノ組織ハ之ヲ計畫監督機關ト現業事務執行機關トニ分ツコト大體内地通信事業ト同様ナリト雖モ朝鮮ニ於テハ其ノ面積ト置局ノ關係トニ徴シ内地ニ於ケルカ如ク地方的計畫監督ヲ專務トスル遞信局設置ノ制ヲ採ラス然レトモ中央唯一ノ機關タル遞信局ニ於テハ業務ノ監督周密ニ行ハレ難キ虞アルヲ以テ更ニ京城、釜山、元山、平壤及清津ノ各郵便局ヲ管理事務分掌局ニ指定シ監督課ヲ置キテ管轄地方監督事務ヲ分掌セシム即チ遞信局ハ總括的事業ノ計畫監督ヲ掌リ事業全般ノ統一振肅ヲ圖リ地方分掌局ハ管内各局所ニ對シ直接業務運用ノ監督指導ヲ爲シ各郵便局所ハ之ニ依リテ各通信現業事務ヲ執掌スルモノトス

(ホ) 朝鮮人ニ對スル事業ノ普及宣傳

通信交通ハ文化ノ中軸ヲ爲スヲ以テ朝鮮人ノ文化開發ニハ通信事業ノ智識及之カ利用ヲ普及セシムル要特ニ緊切ナルモノアルノミナラス朝鮮人ニ貯蓄思想ヲ涵養セシムルハ亦極メテ重要ナル事項ナルヲ以テ通信機關利用者ノ指導及貯蓄獎勵ニ付テハ其ノ實務ノ衝ニ當ル郵便局所從事員ヲシテ懇切叮嚀ニ應接又ハ勸誘セシムルヲ期シ尙各種印刷物ノ配

付講演特ニ普通學校生徒ニ對スル講演等ヲ爲セルカ近年活動寫眞ヲ利用シテ貯蓄ノ獎勵ヲ爲シ其ノ效果大ニ見ルヘキモノアリ最近ニ於テハ朝鮮人ヲ主材トセル貯蓄獎勵映畫ヲ作製セリ尙朝鮮人ニ事業ノ普及ヲ徹底セシムル爲朝鮮人中有能ナル吏員數名ヲ特ニ採用シテ專ラ民衆ノ指導ニ當ラシムルコト、セルヲ以テ其ノ效果多大ナルヘキモノアルヲ信ス

(一) 郵便

(一) 郵便

朝鮮内ニ於ケル最近一ケ年間ノ郵便物發著數ハ三億八千三百三十一萬八千九百六十一箇ニシテ即チ

通常郵便物	
引	受
内朝鮮人ノ分	一八〇、二六六、七〇五
配	達
内朝鮮人ノ分	七〇、一七七、二六三
	一九七、九三一、九四八
	八九、八五六、〇五七

小包郵便物	
引	受
内朝鮮人ノ分	二、一三五、二七〇
配	達
内朝鮮人ノ分	八九〇、七八六
	二、九八五、〇三八
	一、一六五、二八〇

更ニ内地人ト朝鮮人トノ通信利用力ヲ比較細別セハ

通常郵便物(一ケ年間發著數)	
内地人一人平均	四百九十三通
朝鮮人一人平均	九通
小包郵便物(一ケ年間發著數)	
内地人百人ニ付平均	六九三個
朝鮮人百人ニ付平均	一一個

以上ノ如クニシテ内地ニ於ケル通常郵便物一人平均百四十三通小包郵便物二個弱ニ比スレハ朝鮮在住内地人ノ通信力ハ甚タ偉大ナルモ朝鮮人ノ利用ハ尙甚タ幼稚ノ域ニアルヲ免レ

(二) 電信電話

朝鮮ニ於ケル電信電話施設ハ各種産業並文化事業ノ進展ニ伴ヒ其ノ利用ハ著シク増加シ
過去數年間ニ於テ殆ント倍加スルノ狀況ヲ呈シ尙將來益々増加セムトスル趨勢ニ在リト
ス今最近一ケ年間ノ電報發著數ヲ示セハ左ノ如シ

發 信

五、三七九、八〇四

内朝鮮人ノ分

一、一三四、五一六

著 信

五、三五五、一一〇

内朝鮮人ノ分

一、〇二九、九四二

更ニ内地人ト朝鮮人トノ通信利用力ヲ比較細別セハ(一ケ年間發著)

内地人 百人ニ付平均

千九百三十八通

朝鮮人 同

十二通

電話ノ利用者亦年々著シキ趨勢ヲ以テ増加シツ、アルカ其ノ交換加入者數電話通話數等

ヲ示セハ左ノ如シ

加入者數

二七、五八六

内 譯

内地人

二二、七一八

朝鮮人

四、二九四

支那人

四六七

其他外國人

一〇七

加入未架設數

七、六九〇

電話通話數

一三六、三三四、九四一

電話呼出數

三五八、九〇四

(三) 爲 替

銀行其ノ他金融機關ノ分布普カラサル爲内地人ハ郵便爲替ヲ利用スルモノ比較的多キモ
朝鮮人ハ他ノ一般通信事務同様尙其ノ利用甚々幼稚ニシテ將來開拓ノ餘地多シ

最近一ケ年間ノ振出及拂渡口數金額左ノ如シ

振出 二、八九四、一七八口 一一一、八一八、八四八圓

拂渡 二、四三七、一五九口 九七、六一八、七八八圓

(四) 貯金

最近一ケ年間ニ於ケル貯金預拂ノ狀況左ノ如シ

預入度數 四、一二一、六九二度 金額 四九、四五二、四七〇圓

内新規人員 二八二、九六一人

拂戻度數 一、〇三四、〇二七度 四九、五三七、七三〇圓

更ニ昭和二年三月末日現在預人員並預金額

人員 一、七九五、八五八人

金額 二二、四六六、一二六圓

ニシテ之ヲ内鮮人ニ區別セハ

内地人 五〇七、九四六人 一九、二三六、三三四圓

朝鮮人 一、二八七、九一二 三、二二九、八〇二圓

内地人ハ人口百ニ對シ預入者 一一五人

同 預入者一人當金額 三七・八七^円

同 人口一人當金額 四三・四九

朝鮮人ハ人口百ニ對シ預入者 七人

同 預入者一人當金額 二・五一^円

同 人口一人當金額 〇・一七

ニシテ年々健實ナル増進ヲ來シツ、アリ

三、通信事業合同當時ト現今トノ比較

日韓通信事業合同當時ニ於テハ諸般ノ設備不完全ニシテ其ノ利用亦幼稚ノ域ヲ脱セサリシ
カ其ノ後制度漸次改善セラルルニ伴ヒ業務各般ノ利用全ク面目ヲ一新シ現今ノ如キ盛況ヲ
呈スルニ至レリ今事業發展内容ノ一斑ヲ示セハ左ノ如シ

(イ) 通信力ノ比較

種別	三十九年度	最近大正十五年	增加割合	備考
通常郵便(發著) 〔内地朝鮮人〕	五六、二六四、三七一 七、三六一、三二一	二二八、一六五、三三三 一六〇、〇三三、三三〇	割 二八〇・八 二〇七・四	三十九年度ハ日韓 爲セル翌年度ナリ
小包郵便(發著) 〔内地朝鮮人〕	四九七、〇五〇 一五、一八〇	三、〇六四、二四二 二、〇五九、〇六六	割 五一一・六 一、三四四・五	
郵便爲替(受拂)	六六五、八四〇	五、三三一、三三七	割 七〇・一	
郵便貯金(預拂)	二九三、七四八	五、一五五、七一九	割 一六五・五	
電報(發著)	二、〇三五、三五一	一〇、七三四、九一四	割 四二二・七	
電話通話度數	八、四九八、八八二	一三六、三四、九四一	割 一五〇・四	

(口) 郵便局所ノ比較

種別	三十九年度末	最近(昭和元年度末)	增加數	同上割合
局所數	二六四	二六四	〇	割 一五・二
增加數	六六六	四・二		

(ハ) 電信電話機關ノ比較

種別	三十九年度末	最近(昭和元年度末)	增加數	同上割合
電信局所	二七	七六	四九	割 五三・一

(ニ) 郵便遞送線路ノ比較

種別	三十九年度末	元年度末ノ一日平均延里程	增加里程	同上割合
電話通話局所	一四	六二〇	六〇六	割 四三・九
電話交換局所	一〇	一一三	一〇三	割 一〇三・〇
電話加入者	二、三六二	二七、五八六	二五、二三四	割 一〇六・八

(ホ) 電信電話線路比較

種別	三十九年度末	元年度末ノ一日平均延里程	增加里程	同上割合
陸路	二、一六九	五、七七一	三、六〇二	割 一六・六
水路	一、五八九	四、三三三	二、七四四	割 一七・三
鐵道	二、五五六	八、九六五	六、四〇七	割 二五・〇

三十九年度末	電信線路		電話線路	
	長	延	長	延
一、二四八	二、六四二	五三	一、二四九	
二、一五九	八、八一三	一一〇・九	一、一〇九	
割 七・三	割 一一〇・四	割 三九〇・九	割 一一〇・九	
增加割合				割 一一〇・九

一海 事

一、海運事業ノ沿革

古來朝鮮ハ日本及支那ニ對シ通商ノ事實アリシト雖近世ニ至ル迄彼我僅ニ帆船ノ來往スルモノアルニ過キサリシカ明治九年日韓修好條規ノ締結セラレテヨリ甫メテ日本郵船株式會社所屬汽船ノ來航ヲ見ルニ至リ次テ元山、仁川ノ開港ヲ見ルニ及ヒテ大阪商船株式會社亦汽船航路ヲ開始シ爾來世運ノ進歩ニ伴ヒ日鮮及朝鮮沿岸全體ニ亘リテ汽船航路ノ普及ヲ視遂ニ今日ノ隆昌ヲ致スニ至レリ而シテ海運事業ハ之ヲ別チテ本府ノ補助命令ニ依ルモノト本府以外ノ命令ニ依ルモノ又ハ命令ニ依ラサルモノニ大別スルヲ得ヘク先ツ本府命令ニ依ルモノヨリ述ヘムニ韓國政府ノ海運ニ關スル施設ハ從來何等見ルヘキモノナカリシカ日清戰役後同政府ハ海運事業ノ忽ニスヘカラサル所以ヲ悟リ當時政府ノ所有船タリシ蒼龍外二隻ヲ日本郵船株式會社ニ貸與シ政府保護ノ下ニ北鮮方面ノ航海ヲ爲サシメタリ之實ニ韓國政府當初ノ海運政策ト見ルヘキモノニシテ爾來同會社ハ其ノ保護ノ下ニ之ヲ繼續スルコト

三年ニ及ヒタリシカ偶釜山ニ於テ朝鮮人ノ經營スル協同汽船會社ノ設立スルニ會シ政府ハ日本郵船株式會社ニ對スル委託ヲ解除スルト同時ニ同社ニ對シテ其ノ所有船ノ拂下又ハ貸與ヲ爲シ其ノ經營ヲ引繼カシムルニ至レリ其ノ後明治三十年仁川在住堀某仁川、群山及大同江附近ノ間ニ航路ヲ開始シ日本郵船及大阪商船ノ釜山仁川航路ト連絡ヲ取り專ラ鮮米ノ輸出ヲ圖リタルモ經營數年ニテ廢止スルニ及ヒ元山在住吉田某其ノ使用船ヲ買收シ元山ヲ起點トスル北鮮沿岸航路ヲ開始シタルモ經營動モスレハ困難ヲ感スルニ至リタルヲ以テ明治四十一年韓國政府ハ國幣三萬圓ヲ割キ前記吉田ニ貸與シ釜山雄基間ニ命令航路四線ヲ開始セシメタリ之ヲ朝鮮ニ於ケル補助航路ノ嚆矢トス

東海岸ニ於ケル航運ハ如斯稍々節制アル秩序的航海ヲ見ルニ至リタリト雖南沿岸ノ航運ニ對シテハ未タ何等ノ施設ナク物資ノ運輸圓滑ヲ缺クモノ少カラサリシニ依リ當時釜山理事廳ハ民間有力者ヲ説キテ釜山汽船會社ノ創立ヲ見ルニ至リ韓國政府ハ同社ニ命令シ金參萬圓ヲ貸與シ浦項木浦間ニ命令航路ヲ開カシメシカ其ノ後幾何モナク松江ノ共同汽船及大阪商船ノ競争航路現ハルルニ至リタルヲ以テ其ノ經營常ニ一消一長アルヲ免レス之カ爲釜山

汽船會社ハ維持上甚タ困難ニ陥リタルモノノ如ク明治四十二年ニ至リテハ韓國政府更ニ木浦在住武内某ニ對シ年額約五千圓ヲ貸與シテ多島海及木浦群山間ニ命令航路ヲ開始スルニ至リ以テ南沿岸ニ定期汽船航路ノ出入ヲ見タリ而シテ如上ノ命令航路ハ日韓併合後當然朝鮮總督府ニ於テ之ヲ繼承スル所トナレリ

如斯ニシテ朝鮮沿岸ハ西東部ヲ除クノ外定期航路ノ實現ヲ見ルニ至リタリト雖孰モ小規模ノ會社又ハ個人ノ經營ニ屬シ朝鮮産業ノ鼓舞獎勵貿易ノ振興交通ノ改善發達等ノ如キハ到底期待スヘカラサルヲ認メ總督府ハ命令期間ノ將ニ滿了セムトスルヲ好機トシ個個ニ分立セル各經營者ニ對シ合同經營ヲ慫慂シタル結果明治四十五年一月ヲ以テ資本金三百萬圓ノ朝鮮郵船株式會社ノ成立ヲ見ルニ至リ總督府ハ同社ニ對シ明治四十五年度以降三ケ年ヲ期シ沿岸定期航路九線ノ航海遂行ヲ命令シ茲ニ初テ沿岸航路ヲ統一シ其ノ整理改善ヲ期スルノ基礎ヲ築クニ至レリ而シテ之ト同時ニ內陸産業ノ開發ニ資シ交通ニ便セムカ爲河川航路ヲモ開設シ以テ本府命令航路第一期ノ素地ヲ作レリ爾來第二期、第三期ヲ通シ航海命令ノ更改計畫ヲ進メ時世ノ進運ト共ニ航路ノ改善整備ヲ行ヒ專ラ近海ニ進出擴張ニ勗メタリ斯

クテ第三期命令ハ大正十三年度ヲ以テ終了ヲ告クルコトトナレルヲ以テ更ニ更改擴張計畫ヲ進メ同十四年四月近海七線沿岸九線河川三線寄港航路二線計二十一線ヲ命令セリ

翻テ本府命令以外ノ航路ニ就テ海運事業消長ノ跡ヲ尋ヌルニ命令ニ於テハ日本郵船及大阪商船ノ兩社ハ朝鮮ノ開港ト共ニ遞信省ノ命令ニ依リ朝鮮航路ヲ開始シ經營十數年ニ亘リ産業ノ開發ニ貢獻セシ所少カラス其ノ命令解除ノ已ムナキニ至リタル後ニ於テモ日本郵船ハ橫濱北支那線ノ往航ヲ仁川ニ寄港セシメ又大阪商船ハ自營ト地方廳ノ補助ニ依リ西鮮沿岸航路ヲ又陸軍省命令ニ依リテ互光商會ト共ニ東沿岸航路ヲ經營シ以テ大正三、四年ニ至レリ然ルニ歐州戰亂ノ勃發ハ航運系統ニ尠カラサル影響ヲ及ホシ大阪商船會社ノ如キ一時西鮮航路ヲ休止又ハ廢止スル所アリシモ再ヒ平和來ト共ニ自營ヲ以テ同方面ニ航路ヲ復活シ其ノ後定期航路ニ更改シテ現ニ繼續中ニ在リ其ノ他對馬商船會社ハ地方廳ノ補助ニ依リ長崎又ハ博多ヨリ釜山間ノ航路ヲ阿波國共同汽船會社ハ關東廳ノ補助ニ依リ大連仁川間ノ航路ヲ經營シ大正十一年ニ至リテハ本府又之ヲ補助シテ其ノ支持ニ勗メタル外鮮內地方廳ノ地方費ヲ以テ沿岸小航路ニ補助セルモノ年次累加シ之カ幹線トノ連絡提携ニ依リ地方航

運ノ發達ニ貢獻シタルモノ蓋シ尠カラサル現状ナリ次テ命令ニ依ラサルモノノ航路ニ在リテハ仁川堀某ノ西海岸ノ一部ニ航海ヲ開始シタルヲ以テ嚆矢トスルモノノ如ク次テ元山ノ吉田某、仁川ノ秋田某年々歳々漸テ沿岸及近海ニ幾多ノ經營者ヲ續出スルニ至リタリト雖孰モ其ノ事業ニ一長一消アリテ開廢常ナク其ノ沿革ト經營トハ今日之ヲ詳ニスルコトヲ得サルモ逐年朝鮮ノ産業開發ニ伴ヒテ堅實ナル經營者ヲ増加シ今日ニ於ケル自營航運ノ隆盛ヲ臻シタルモノトス

朝鮮近海及沿岸定期航路年次比較表

年次	線路數	就航船數	總噸數
大正十一年	七	二四	六、三六
同十二年	八〇	一八	六、六七
同十三年	九三	二〇三	七、〇一〇
同十四年	八九	二二	七、二二七
昭和元年	九六	二四九	九、一三七

本表ハ各年末調トス

朝鮮定期航路一覽表

(昭和二年四月一日現在)

一、朝鮮總督府命令

内地及外國航路

線路名	航海度數	使用船舶		經營者	備考
		船名	總噸數		
清津敦賀線	月二	白頭山丸	二、〇九一	朝鮮郵船株式會社	千噸級ハ毎年十一月ヨリ翌年三月迄ノ期間就航ス
釜山浦鹽斯德線	年三〇	釜山丸	一、六二五	同	
雄基關門線	月三	京畿丸	九、九四	同	
伏木浦鹽斯德線	年二〇	北祐丸	一、四五〇	北陸汽船株式會社	遞信省、富山縣石川縣、命令併用
朝鮮北支那線(仁川起點)	年二七	會寧丸	一、〇一〇	朝鮮郵船株式會社	鎮南浦、新義州ニハ冬期結氷中寄航セス
朝鮮上海線(仁川起點)	年一八	平安丸	一、五八〇	同	鎮南浦ニ冬期結氷中寄航セス

河川航路

線路名	航海度數		船名	總噸數	經營者	備考
	度數	航海				
釜山鬱陵島線(道洞終點)	月四	穩城丸	三七二	同		
元山清津線	月一五	光平丸	一〇一五七	同		
釜山濟州島線	月五	鏡城丸	三七二	同		
仁川鎮南浦線	月四	盈德丸	二四〇	同	航冬期結氷中ハ休	
木浦濟州島線 多島海線 木浦西廻線 木浦東廻線 多島海線	月各四 月三	海州丸 慶興丸	二五七 一九九	朝鮮郵船株式會社		
仁川木浦線	月三	昌原丸	一八六	同		
釜山元山線	月九	忠濟丸 雄基丸	七四七 七〇一	朝鮮郵船株式會社		

沿岸航路

線路名	航海度數		船名	總噸數	經營者	備考
	度數	航海				
大連仁芝川梁線	月四	第三十一共同丸	一三八〇	阿波國共同汽船株式會社	關東廳命令併用	
新義州大阪線	年三六	慶漢州丸	一一二八三	朝鮮郵船株式會社	鎮南浦、新義州ニハ冬期結氷中寄航セス	
釜山關門島線	月二	咸鏡丸	七四九	同		
朝鮮大長崎線 (仁川起點)	月二	大智丸	一一二〇六	大阪商船株式會社	長崎市、熊本縣鹿兒島縣、命令併用	
朝鮮北海道連線 (仁川起點)	年二〇	大成丸	二〇八二四	鳴谷汽船株式會社	鎮南浦ニ冬期結氷中寄航セス	

二、内地官廳及地方廳命令航路

内地航路

線路名	航海度數	使用船名	總噸數	經營者	備考
新義州新芑坡鎮線	月六	同同同同同 發動機船 飛鳥丸 雄飛丸 かもめ丸 雁さめ丸 さき丸 追風丸 こま丸	〇〇〇〇〇七一	株式會社鴨綠江輪船公司	航冬期結氷中ハ休
新義州中江鎮線		新義州ヨリ 高瀨舟一ヶ月 楚山間三月 滿浦鎮間三月 中江鎮間四月 新義州ヨリ 私倉洞間三月 私倉洞間三月 楚山間四月 滿浦鎮間四月 慈城間二月 慈城間二月 中江鎮間二月	三〇高瀨舟 六四艘子	鴨綠江運輸株式會社	航冬期結氷中ハ休

沿岸航路

線路名	航海度數	使用船名	總噸數	經營者	備考
大阪清津線	月四	臺臺 中南丸丸	三三、二七五 三二、一七五	大阪商船株式會社	命陸軍令省
同	月一五	立神丸	二、四八五	朝鮮郵船株式會社	同
朝鮮西岸線(東京—仁川線)	年二四	天安瀛丸丸	二、一八六 二、一五六	同	命遞信令省
長崎對壹馬岐線	月六	信濃川丸	六四〇	對馬商船株式會社	命長崎縣令
浦項濱田線	月三	第十二隱岐丸	四九九	隱岐汽船株式會社	命島根縣令 命慶尚北道令
仁川海州線	日航	巨濟丸 宗信丸	二〇五二 一五三三	朝鮮郵船株式會社	命京畿道、黃海道令 命、結氷中休

三、官公營航路

線路名	航海度數	使用船名	總噸數	經營者	備考
清津雄基線	月一五	櫻井丸	一八八	同	威鏡北道命
珍島木浦線	日航	珍島丸 發動機船	四一	珍島運輸株式會社	全羅南道命
莞島各島嶼線	月二六 月二八	同莞島丸 同第二莞島丸	二一七 三	莞島面巡航船組合	同
麗水所里島線	月一五	同鶴丸	一一	岡橋鶴松	同
南海三千浦線	日航	同南海丸	五	南海運輸合名會社	慶尙南道命
群山廣川線	月六	同全忠丸	一八	下平福太郎	全羅北道命

內地航路

沿岸航路(渡船)

線路名	航海度數	使用船名	總噸數	經營者	備考
關釜連絡線	月一五 日二	新高麗丸 昌慶丸 景德丸 景福丸 壽丸	三三〇 三〇二 三二八 三三六 三六六 三六六 三九九 三九九	鐵道省	貨物ニ限ル

四、自營航路

線路名	航海度數	使用船名	總噸數	經營者	備考
釜山牧ノ島線	一時四 時間	同同同同 同富洲丸 同牧ノ島丸 同松島丸 同常盤丸 發動機船	一一六 二〇五 二二五 二三八	釜山府	午前一時ヨリ同 六時迄ハ航海ニ 同トナル
群山龍塘浦線	日九	同群山丸	一七	群山府	

內地又ハ外國航路

沿岸航路

線路名	航海度數	使用船舶		經營者	備考
		船名	總屯數		
仁川東京線	月一	福第六 幸札幌丸	二、二〇四	澤山兄弟商會	
仁川阪神線	月二	潮三東洋丸 日南丸	一、六二六 二、九八五	同	
東岸東京線(清津起点)	月一五	錦江丸	一、二六四	朝鮮郵船株式會社	
北海道釜山線	月一	高雄丸 吳滋丸	三、二〇九 三、〇六九	川崎汽船株式會社	
大連芝罘線	月四	利通號	一、八五五	利通輪船有限公司	
大阪濟州島線	月二	君か代丸	九二二	合資會社尼崎汽船部	
大連天津線	月三	濟通丸	一、〇三七	大連汽船株式會社	

線路名	航海度數	使用船舶		經營者	備考
		船名	總屯數		
博多釜山線	月一〇	球丸	七九五	對馬商船株式會社	
浦內鹽地斯北德鮮線	月二	北成丸	一、二八〇	北陸汽船株式會社	
敦賀清津線	月二	福陽丸	一、五四〇	西脇健治	
南鮮京濱線	四月又五	雲四平 南川和丸	二、二〇〇 一、九三三	大阪商船株式會社	
大阪仁川線	月六	山朝沖 東信香繩丸	一、九二二 一、九三〇 一、九三〇	同	
神戶雄基線	月二	大明丸	一、〇一一	川崎汽船株式會社	
南鮮阪神線	月三	東鹿祐丸 糸山崎丸	一、二〇三 一、二六五	同	

線路名	航海度數	使用船名		總屯數	經營者	備考
		船名	船名			
木浦西倉線	日航	同	玄海丸	一〇	玄龍鎬	
木浦長興線	月一五	發動機船	木浦丸	三六	靈岩運輸倉庫株式會社	
木浦靈巖線(北倉)	日航	同第一靈巖丸	同第二靈巖丸	二七	靈巖運輸倉庫株式會社	
群山苗浦線	月八	同	新苗浦丸	一九	苗浦海運組合	
仁川瑞山線	日航	發動機船	弘榮丸	二四	文善弘	
仁川南元浦線	月八	補助機付帆船	金榮丸	一九	同	
仁川唐津線	月一二	同	迎陽丸	三一	笠井治三郎	
仁川永宗島線	月四又五	同	第一江華丸	一四	朴元相	
仁川江華島線(甲串)	日航	發動機船	神島丸	四九	同	

線路名	航海度數	使用船名		總屯數	經營者	備考
		船名	船名			
仁川延安線	月一五	發動機船	第三江華丸	三九	俞鎮植	
仁川瓮津線	月五	同	住吉丸	五九	同	
仁川延安線	月一五	同	乙姬丸	二八	同	
仁川舊島線 唐津線 仁川唐津線	月一六	同	萬世丸	四三	同	
仁川仙掌線	日航	發動機船	安三榮丸	四四	同	
仁川海州線	月一五	補助帆船	吉辰丸	三三	仁川汽船株式會社	冬期結水中休航
同	月三	敦賀丸		九九六	北鮮炭鑛汽船株式會社	
元山雄基線	月六	因洋丸	玄洋丸	二五二	岡田汽船株式會社	
元山雄基線	月六	新高知丸	咸北丸	四二六	朝鮮郵船株式會社	

線路名	航海度數	使用船名		總屯數	經營者	備考
		船名	船名			
康津莞島線	月一五	同片倉丸		一五	細田榮穂	
木浦海倉線	日航	同津興丸		二四	金忠植	
木浦望湖里線	日航	同月出丸		二三	慎昶範	
木浦長興線	四日一	發動機船 米正丸 同第七號蛭子丸		一八 二六	木松二郎	
木浦龍塘線	日八	同龍塘丸		四	安渡治之吉	
木浦蟬島線	月一〇	同第三航運丸		四二	同	
木浦法聖津浦線	月月四三	同第一航運丸		五三	同	
木浦釜山線	月六	同第五航運丸		六九	同	
木浦釜山線	月麗水(八)釜山(五)	同第二航運丸 同第四航運丸		七一 六九	木浦海運株式會社	

線路名	航海度數	使用船名		總屯數	經營者	備考
		船名	船名			
木浦望雲線	日航	發動機船 第二望雲丸		一一	木松二郎	
木浦海南線(燕湖里)	月一五	同第二海南丸		四三	海南共同運輸株式會社	
木浦海南線(北倉)	日航	同第一海南丸		二二	同	
木浦荏子島線	月一五	同第二湖南丸		二〇	同	
木浦鹽山面線(燕湖里)	月一五	同飛行丸		三五	海鮮運送株式會社	
木浦海南線	月一五	同康海丸		一九	同	
木浦多島海線(荷衣島)	月一五	發動機船		同	同	休航中
同	月一五	同江慶丸		一三	小谷常次郎	
同	月一五	同湖南丸 同南第一丸		三四 三一	南一運輸株式會社	

線路名	航海度數	使用船舶		總屯數	經營者	備考
		船名	船舶			
釜山長承浦線	日航	發動機船運丸	二五	巨濟海運商會		
釜山浦項線	月一〇	鹿兒島丸	一〇六	中部幾次郎		
釜山麗水線	月一五	發動機船第三いろは丸	六七	朝鮮海運株式會社		
釜山辰橋線	月一五	辨天丸	一五〇	同		
釜山船津線	月一五	公州丸	一八七	同		
釜山九龍浦線		發動機船慶信丸	七五	同		
釜山統營線	月一五	同慶神丸	六三	同		
釜山統營線	月一五	同慶南丸	五二	同		
釜山統營線	月一五	同慶南丸	五二	同		
釜山木浦線	月五	同同同同同	七九	朝鮮汽船株式會社		
		同同同同同	八七			
		同同同同同	九一			
		同同同同同	三三			
		同同同同同	一一			

線路名	航海度數	使用船舶		總屯數	經營者	備考
		船名	船舶			
釜山麗水線	月一五	同同同	八九〇	同		
釜山方魚津線	日航	同同大運昌丸	三七八	朝鮮汽船株式會社		
莞島康津線	月一五	同康津丸	四	康津繁榮會		
統營固城線	日航	同同第一高島丸	一九二	朴鶴重		
統營巨濟島線	日航	發動機船同巨濟丸	一〇八	統營海運株式會社		
馬山統營線	日航	同慶釜丸	五九	朝鮮汽船株式會社		
馬山統營線	月一五	同鎮東丸	一〇	馬山運輸組合		
馬山鎮海線	日五	同第一鎮海丸	一六	同		
馬山統營線	日航	同同第五鎮海丸	二五	鎮海灣汽船株式會社		
		同同第七鎮海丸	三五			

線路名	航海		船名	總屯數	經營者	備考
	度數	使用船				
麗水鳶島線	月三〇	發動機船 寶來丸	一	趙亨敏		
麗水莞島線	月一五	同名福丸	三九	朝鮮汽船株式會社		
巨濟欲知島線	月一五	同第一運航丸	三一	巨濟運航株式會社		

河川航路

線路名	航海		船名	總屯數	經營者	備考
	度數	使用船				
木浦榮山浦線	月一五	發動機船 榮浦丸	二六	山田林平		
鎮南浦今卜線	日航	同常盤丸	二四	鎮南浦汽船株式會社	冬期結氷中ハ休航	
鎮南浦猪島線	日二	同黃海丸	一五	同	同	

二、船舶

線路名	航海		船名	總屯數	經營者	備考
	度數	使用船				
洛東南旨線	日航	同つばめ丸	三	洛東江巡航船組合		
龜浦加洛線	日三	同第三春風丸	六	田中兼次郎		
龍岩浦新義州線	日航	同戎丸	一〇	吉田水陸交通株式會社	冬期結氷中ハ休航	

明治四十三年總督府設置當時ニ在リテハ船舶原簿ニ登録セラレタル船舶ハ汽船帆船ヲ合シテ僅ニ八十八隻九千三百餘噸ニ過キサリシモ其ノ後海運ノ發達ニ伴ヒ逐年置籍船舶ノ増大ヲ來タシ大正十五年及昭和元年度末ニ於テハ總數八百五隻六萬六千八百八噸ヲ算スルニ至レリ今其ノ消長ノ跡ヲ表示スレハ次ノ如シ

登録船舶現在數累年調

種別	汽船		帆船		石船		合計	
	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	積石數	船數	總噸數
明治四十五年	七二	一三、三八〇	一五〇	四、三八四	二二	五、九五〇	二四二	一八、三九九
大正元年	一〇八	三六、一九五	五五三	一八、二四八	二	五、八九九	六六三	五四、五〇一
大正十一年度	一三三	三四、一四四	五八七	一九、三八〇	二	五八九	七二一	五三、五五一
大正十二年度	一三七	四三、七八〇	五九九	一九、六〇七	二	五八九	七三八	六三、四四五
大正十三年度	一四七	四四、五〇〇	六二七	二一、〇七五	二	五八九	七七六	六五、六五三
大正十四年度	一五八	四五、一二二	六四五	二二、六三八	二	五八九	八〇五	六八、八〇八
大正十五年及昭和元年	一五八	四五、一二二	六四五	二二、六三八	二	五八九	八〇五	六八、八〇八

注意 合計欄中石數船ハ十石ヲ一噸ニ換算ス

不登簿船舶現在數累年調

種別	汽船		帆船		石船		合計	
	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	積石數	船數	總噸數
明治四十五年	二二	一〇四	一四四	一、一七六	六二〇	四九、四一七	七七五	六、三五五
大正元年	一六	一、三七	四、三五九	五〇、八六六	一、三六一	一三三、五四四	六、四九〇	六四、四八六
大正十一年末	一五三	一、六八二	四、二八三	四六、六六三	一、七〇五	一四四、四二二	五、八三六	六二、七八六

種別	汽船		帆船		石船		合計	
	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	積石數	船數	總噸數
大正十三年末	一六四	一、八六三	四、八〇〇	五二、六一〇	一、七三三	一四四、七五五	六、一四〇	六八、九四四
大正十四年末	一八七	二、一七九	四、九三三	五六、一三三	二、〇〇五	一六八、五〇〇	七、一〇五	七五、一六四
昭和元年末	三三三	二、六二八	五、〇九〇	六〇、六三九	一、八八五	一八一、六三〇	七、一九八	八一、四三〇

注意 合計欄中石數船ハ十石ヲ一噸ニ換算ス

造船及鐵工事業ノ消長ニ就テハ歐洲戰亂ノ勃發ニ伴ヒ一般海運界ノ活況ニ刺戟セラレ朝鮮ニ於テモ一時小造船所ノ簇出ヲ見新造セラレタル船舶多數ニ上リタルモ何レモ沿岸就航ノ帆船及小型發動機船ノミニ止マリ汽船ニ至リテ一隻ノ新造ヲモ見ル能ハス間モナク戰局ノ終焉ヲ告クルト共ニ海運ノ不況ニ遭遇シ爾來思ハシキ振興ヲ見スシテ今ニ至レリ今登錄原簿ヨリ觀察シタル新造船ノ狀況ヲ擧クレハ次ノ如シ

朝鮮新造船登錄狀況累年調

所在地	名稱	資本	職工數
同	木浦鐵工	10,000	一五
同	日の丸鐵工	五,000	七
同	山崎鐵工	五,000	一四
同	仁川造船鐵工	140,000	六〇
同	京仁鐵工	2,000	二五
同	綵谷鐵工	110,000	二〇
同	國谷鐵工	110,000	一五
同	朝鮮商工株式會社	11,000,000	四九
浦	川添木鐵工	九,000	二九
津	西田鐵工	110,000	一三
同	澤井鐵工	110,000	一八
同	山鐵工	三三,000	二六
同	川治鐵工	17,000	二
同	佐々木造船	五,000	三
同	田中造船	五〇,000	一五
同	牧之島造船	110,000	二
同	中村造船	八〇,000	一五

所在地	名稱	資本	職工數
新	新義州鐵工	五〇,000	三〇
同	東島鐵工	五,000	二
同	太田造船	110,000	二
同	大野造船	11,000	一
同	河合造船	三〇,000	一八

造船鐵工業者調 (主ナルモノ)

年度別	汽船		帆船		合計	
	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數
明治四十五年	1	1	7	184	7	184
大正元年	3	131	25	809	28	940
大正十一年	1	75	17	587	18	662
大正十二年	5	279	6	255	11	534
大正十三年	4	201	10	333	14	534
大正十四年	4	201	7	336	11	537
大正十五年及昭和元年	6	332	7	336	13	547

所在地	名	稱	資本金	職工數
釜山	百合包造	船會社	11,000	34
同	釜山船渠	會社	200,000	8
同	岡野造	船會社	200,000	16
同	森本造	鐵船工	10,000	17
同	西條鐵	船工	10,000	2
馬山	菊田造	船工	8,000	3
同	正木庄	造船	10,000	2
同	曾我定	次郎	10,000	3
同	荒木松	次郎	10,000	10

三、海員

海員ノ保護養成ニ就テハ總督府設置以來專ラカヲ致スト共ニ船舶職員試驗制度ヲ確立シ其ノ後大正八年七月ニハ海員養成ノ機關トシテ仁川ニ海員養成所ヲ設置スル等極力海員ノ保護養成ニ對シ不斷ノ努力ヲ惜マサル結果最近ニ於テハ朝鮮船員手帖受有者數六千六百五十三人其ノ内朝鮮海技免狀ヲ受有スルモノ千四百五十一人ノ多數ニ上リ之ヲ船員令及職員令

發布當初ノ年末現在數ニ比較セハ實ニ船員ニ於テ九十一割餘職員ニ於テ二百三十四割ノ激増ヲ示スニ至レリ以上ノ外内地船員手帖又ハ内地海技免狀ヲ受有シテ朝鮮船舶ニ乗組ムモノ或ハ船員手帖ヲ受有セスシテ乗組ム者(平水航路ノ官廳船)ヲ合セハ船員四千八百五十六人職員三百五人ノ多數ニ上ル今海技免狀受有者數及海員養成ノ狀況ヲ表示セハ次ノ如シ

船員數累年調

年度別	朝鮮ニテ手帖ヲ受有者			内地ニテ手帖ヲ受有者			合計		
	内地人	朝鮮人	計	内地人	朝鮮人	計	内地人	朝鮮人	計
大正三年度	243	479	722	344	23	367	955	576	1,531
大正十年度	67	182	249	97	56	153	360	379	739
大正十一年度	133	498	631	283	70	353	588	775	1,363
大正十二年度	167	433	600	308	115	423	629	696	1,325
大正十三年度	238	448	686	339	113	452	786	693	1,479
大正十四年度	161	447	608	193	124	317	463	730	1,193
大正十五年度	155	474	629	196	122	318	461	799	1,260
昭和元年度	196	474	670	246	122	368	516	799	1,315
累計	1,961	4,503	6,464	3,646	887	4,533	5,716	5,594	11,310

海技免狀受有者累年調

年 度	朝鮮ノ海技免狀ヲ受有スル者		計	内地ノ海技免狀ヲ受有シ朝鮮在籍船ニ乗組メタル者		計	合 計	
	内地人	朝鮮人		内地人	朝鮮人			
大正三年	六〇	二	六二	一九九	二〇三	二五九	六	
大正四年	七九	二	八一	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正五年	八七	二	八九	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正六年	八〇	二	八二	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正七年	九二	二	九四	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正八年	九三	二	九五	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正九年	九三	二	九五	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正十年	九三	二	九五	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正十一年	九三	二	九五	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正十二年	九三	二	九五	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正十三年	九三	二	九五	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正十四年	九三	二	九五	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
大正十五年及昭和元年	九三	二	九五	二二	二〇三	一〇〇〇	一九三	
計	一、〇四三	四〇	一、〇八三	二九七	三〇五	一、三四六	四一〇	

海員養成所養成狀況調

種 別	種 類	大正十一年		大正十二年		大正十三年		大正十四年		大正十五年及昭和元年	
		入學者	卒業者	入學者	卒業者	入學者	卒業者	入學者	卒業者	入學者	卒業者
本 科	朝鮮地 人	四	一四八	七二	五六	七	四〇	六四	三七九	七〇	三七九
		一	二九	一	一六	一	二七	一	二二	一	二二
練 習 科	朝鮮地 人	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇
		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計		二〇	一五八	七三	六六	八	五〇	六五	三九一	七一	三九一
		二一	一六八	七四	七六	九	五〇	六五	四〇	七二	三九一

四、航 路 標 識

種 類	大正十一年		大正十二年		大正十三年		大正十四年		大正十五年及昭和元年		
	入學者	卒業者	入學者	卒業者	入學者	卒業者	入學者	卒業者	入學者	卒業者	
專 修 科	朝鮮地 人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
練 習 科	朝鮮地 人	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一
		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計		三	二	三	二	三	二	三	二	三	
		三	二	三	二	三	二	三	二	三	

朝鮮ニ於ケル航路標識事業ハ明治十六年締結(日本人民貿易規則中)韓國政府ニ於テ後來通商各港ヲ修理シ燈臺礁標ヲ設クヘシ)ノ協約ニ基ク帝國政府ノ交渉ニ應シ舊韓國政府ニ於テ同三十六年仁川小月尾島外三箇所ニ燈臺ヲ建設シタルヲ以テ嚆矢トス保護政治肇始後益施設ノ急ヲ圖リ明治三十八年度末ニ於テ標識總數五十三基ヲ算スルニ至リタルモ未タ沿岸線百六十海里毎ニ一標識ヲ有スルノ割合ニ過キス特ニ西南岸ノ如キハ潮流急激ニシテ無數ノ島嶼碁布星列シ夏期ニハ濃霧常ニ襲來スルカ故ニ更ニ明治三十九年度以降五ヶ年間繼續

工事トシテ全沿岸ニ亘リ標識建設ニ著手シ同四十四年工事ノ竣了ヲ見ルニ至リ夜標五十九
 晝標百十三、霧信號十六合計百八十八基ヲ算スルニ至レリ其ノ後必要ニ應シ之ヲ増設シテ
 最近ニ於テハ夜燈百〇九、晝標百〇八、霧信號二十一總計二百三十八基ニ達セリ
 今施設ノ狀況及沿岸線ニ對スル比較ヲ表示セハ左ノ如シ

航路標識累年比較調

年 度 別	夜 標	晝 標	霧 信 號	合 計	夜標一個ニ對スル沿岸 埋數割合	各標識一個 ニ對スル沿岸 埋數割合
明治三十八年度末	一六	三七	一	五三	五八三	一七六
大正十一年度末	九	一〇七	〇	一一六	九五	四
大正十二年度末	九	一〇三	〇	一一二	九四	四
大正十三年度末	一〇七	一〇五	三	二一五	八七	四
大正十四年度末	一〇八	一〇四	三	二一五	八六	四
昭和元年度末	一〇九	一〇八	三	二二〇	八五	四

五、海員審判

海員審判制度ヲ實施シタルハ大正三年六月朝鮮海事ニ關スル諸法規ノ實施ト時ヲ同フセル

モノニシテ既ニ十有一年餘ノ歲月ヲ經過シ此ノ間審判所ニ於ケル受理件數ハ昭和元年度末
 ニ於テ九百二十二件ニ達セリ其ノ制度ハ内地ノ二審制度ナルニ反シ一審制度ヲ採用セリ

電 氣

一、電氣事業ノ沿革

朝鮮ニ於ケル電氣事業ハ今ヲ去ル二十八年前即チ明治三十二年京城電氣株式會社ノ前身タ
 ル米國人「コールブラン」ノ經營ニ係ル韓美電氣會社ノ電鐵事業ヲ以テ嚆矢トス後同三十四
 年同社ニ於テ電燈事業ヲ兼營スルニ及ヒ初メテ鮮土ニ電燈ノ光ヲ見ルニ至レリ然レトモ此
 等ハ孰レモ外國人ノ經營スルトコロニ係リ其ノ本邦人ノ手ニ創設セラレタルモノハ明治三
 十九年仁川及釜山ニ於テ電燈事業ノ開業ヲ見タルニ止マリ斯業ノ發達遲々トシテ見ルヘキ
 モノナカリシカ同四十三年日韓併合ト共ニ新政宣布セラレ百般ノ産業興隆スルニ伴ヒ電氣
 事業ヲ企畫經營スルモノ漸ク輩出スルニ至レリ

二、電氣事業ノ現況

既記ノ如ク電氣事業ノ發達ハ極メテ軌近ノコトニ屬ス即チ明治四十三年三月末日現在ニ於テハ事業數營業用僅カニ三其ノ資本金三百二十五萬圓拂込資本金二百六十四萬九千八百圓發電力千六十五「キロワット」電燈總數一萬五千八百十五燈ヲ算スルニ過キス電力ノ需用ハ皆無ナリシカ昭和二年三月末日現在ニ於テハ營業用實ニ七十二資本金一億九千六百五萬三千五百圓拂込資本金三千六百七十三萬四千五百圓、發電力三十九萬四千四百六十八「キロワット」ニシテ其ノ內營業ヲ開始セルモノ六十五、資本金五千五百七十九萬三千五百圓、拂込資本金三千六百七十三萬四千五百圓、發電力三萬六千八百十「キロワット」電力一萬六千六百三馬力、電燈總數九十二萬二千五百六十七燈ニ達シ主要都邑ニ於テハ殆ント電燈ノ點セサルハナキニ至レリ而シテ之ヲ前記明治四十三年末現在ニ比スレハ事業數二十四倍、資本金六十倍弱、拂込資本金十三倍強電燈數五十八倍弱發電力三百六十四倍強ノ増加ニシテ眞ニ隔世ノ感ナキ能ハス其ノ他自家用トシテ電氣工作物ヲ施設セルモノ七十三發電力三萬四千六十四「キロワット」官廳用十四、發電力四千五百「キロワット」ニシテ其ノ詳細及原

動力別發電所數等左表ノ如シ

營業用電氣事業 昭和二年三月末現在開業ノ分

事業者名	事業目的	資本金	拂込資本金	原動力	發電力	電燈數	据力數
朝鮮瓦斯電氣株式會社	電力、電鐵	六、〇〇〇、〇〇〇	三、七五〇、〇〇〇	瓦斯力	二、二五〇KW	九一、九九六	一、九六三
釜山支店					六〇〇		
密陽支店					四〇〇		
朝鮮瓦斯電氣株式會社	同	—	—	同	—	—	—
金剛山電氣鐵道株式會社	同	一、一〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	水力(未成立)	七、〇〇〇	九、六〇五	一〇三
平壤府	同	投資額 一、四〇八、五〇〇	一、四〇八、五〇〇	汽受	一、〇〇〇	四九、八七七	八六
京城電氣株式會社	同	—	—	汽受	一〇、一〇〇	三八〇、八三七	七、五〇〇
仁川支店	電燈、電力	一五、〇〇〇、〇〇〇	一〇、五〇〇、〇〇〇	汽受	一、五〇〇	三八、八七九	一、四九四
馬山支店	同			汽受	一、〇〇〇	一〇、九〇七	七三
鎮海支店	同			汽受	四、二五〇	六、〇一九	—
元山水力電氣株式會社	同	七五〇、〇〇〇	三九〇、〇〇〇	水力	二、四〇〇	二六、六五六	一六一
鎮南浦電氣株式會社	同	一五〇、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	瓦斯	一、四八〇	一一、六七一	七三七
大田電氣株式會社	同	五〇〇、〇〇〇	一一五、〇〇〇	瓦斯	一、六五〇	一一、九二八	六
清州支店	同			瓦斯	二、二一〇	三、四一九	—
鳥致院支店	同			瓦斯	一、五〇〇	一一、〇九一	—
清州支店ハ鳥致院發電所ヨリ供給				瓦斯	—	—	—

事業	業者名	目的業	資本金	拂込資本金	原動力	發電力	電燈數	馬力數
木浦電燈株式會社	同	同	500,000	275,000	汽	732 //	16,028	175
群山電氣株式會社	同	同	500,000	160,000	汽力(未落成)	2600 //	12,857	104
大興電氣株式會社	大邱支店 威興支店 金泉支店 浦項支店 光州支店 尙州支店	同	1,000,000	1,015,000	汽 瓦 汽 同 瓦 重	1,5000 // 2,000 // 1,040 // 280 // 370 // 950 // 1500 //	38,549 12,309 3,453 2,479 10,405 754	392
大興電氣株式會社	統營支店	同	—	—	重瓦	450 //	3,277	—
朝鮮電氣株式會社	同	同	500,000	500,000	汽力 瓦力 水力(未成立)	4000 // 2950 // 309 //	28,364	—
水原電氣株式會社	同	同	600,000	450,000	瓦	115 //	4,537	—
新義州電氣株式會社	同	同	100,000	140,000	受	450 //	3,511	1,095
全北電氣株式會社	同	同	1,500,000	600,000	重瓦	1600 //	19,518	—
晉州電氣株式會社	晉州本店 居昌支店	同	100,000	101,500	同瓦	100 //	5,344	—
開城電氣株式會社	同	同	100,000	150,000	汽	170 //	779	—
同	同	同	200,000	150,000	汽	200 //	19,824	84

事業	業者名	目的業	資本金	拂込資本金	原動力	發電力	電燈數	馬力數
會寧電氣株式會社	同	同	150,000	82,500	汽	80 //	—	—
朝鮮電氣興業株式會社	同	同	10,000,000	3,000,000	汽	6,500 //	—	1,746
麗水電氣株式會社	同	同	100,000	65,000	瓦	34 //	1,996	—
海州電氣株式會社	同	同	200,000	25,000	同	63 //	5,109	—
江景電氣株式會社	同	同	100,000	140,000	重	75 //	3,610	—
兼二浦面	同	同	額投資 40,000	40,000	受	50 //	2,451	—
公州電氣株式會社	同	同	100,000	100,000	瓦	69 //	2,742	—
安州電氣株式會社	同	同	50,000	25,000	汽	24 //	1,792	—
北鮮商事株式會社	同	同	150,000	75,000	瓦	20 //	1,425	—
城津電氣株式會社	同	同	100,000	51,000	重	50 //	3,947	—
蔚山電氣株式會社	同	同	100,000	47,000	瓦	24 //	2,018	—
慶州電氣株式會社	同	同	110,000	30,000	瓦	28 //	1,253	—
滿鮮殖産電氣株式會社	同	同	500,000	25,000	受	500 //	408	—
天安電燈株式會社	同	同	50,000	27,500	重	30 //	2,071	—

事業者名	事業目的	資本金	拂込資本金	原動力	發電力	電燈數	据力數
井邑電氣株式會社	同	100,000	75,000	同	45 //	3,097	—
雄基電氣株式會社	同	100,000	40,000	同	50 //	2,866	—
沙里院面	同	投資額 65,000	65,000	同	50 //	3,269	—
江界電氣株式會社	同	150,000	45,000	同	28 //	2,739	—
春川電氣株式會社	同	50,000	50,000	瓦斯	50 //	2,833	—
蔚山本府電氣株式會社	同	100,000	25,000	重油	20 //	1,083	—
河東電氣株式會社	同	100,000	25,000	同	20 //	928	—
順天電氣株式會社	同	330,000	25,000	同	40 //	1,589	—
三千浦電氣株式會社	同	100,000	33,000	瓦斯	33 //	700	—
全南電氣株式會社	同	100,000	60,000	重油	50 //	2,562	—
定州電氣株式會社	同	150,000	37,500	同	50 //	2,279	—
城南電燈株式會社	同	100,000	25,000	瓦斯	40 //	—	—
濟州電氣株式會社	同	100,000	25,000	重油	40 //	1,408	—
固城電氣株式會社	同	100,000	33,000	同	20 //	631	—

事業者名	事業目的	資本金	拂込資本金	原動力	發電力	電燈數	据力數
安東電氣株式會社	同	100,000	25,000	同	50 //	1,335	—
筏橋電氣株式會社	同	30,000	30,000	同	18 //	634	—
南原電氣株式會社	同	150,000	37,500	同	33 //	1,103	—
泗川電氣株式會社	同	100,000	25,000	瓦斯	30 //	710	—
靈法電氣株式會社	同	150,000	33,500	重油	36 //	1,110	—
忠州電氣株式會社	同	100,000	25,000	同	47 //	1,010	—
宣川電氣株式會社	同	100,000	25,000	同	45 //	2,371	—
北青電燈株式會社	同	100,000	45,000	同	48 //	1,847	—
合計	同	557,733,500	291,893,500		未受 36,810,500 5,829,000 4,300,000	93,567	16,603

未開業ノ分

事業者名	事業目的	資本金	拂込資本金	原動力	發電力
甘浦電氣株式會社	電燈電力	80,000	10,000	(未)重油力	15 k.w

事業者名	事業目的	資本金	拂込資本金	原動力	發電力	電燈數	据付馬力數
鴨綠江水力電氣株式會社	電力	10,000,000円					110,723//
鬱陵島水力電氣工業所	電燈、電力、集魚電燈研究	30,000	會社未成立				15//
江陵電氣株式會社	電燈 電力	100,000	同				45//
朝鮮水電株式會社	同	100,000,000	7,500,000				110,000//
長津江電力株式會社	同	100,000,000	會社未成立				217,031//
溫陽電氣株式會社	同	50,000	25,000	重油力			30//
合計		714,010,000	7,550,000				351,819//

明治四十三年三月末日現在營業電氣事業

事業者名	事業目的	資本金	拂込資本金	原動力	發電力	電燈數	据付馬力數
釜山電燈株式會社	電燈供給	100,000円	100,000円	汽力	180	3,486	
仁川電氣株式會社	同	150,000	150,000	同	200	3,729	
日韓瓦斯電氣株式會社	電氣供給	3,000,000	2,399,800	同	685//	8,600	
京城支店	電氣供給	3,250,000	2,649,800		1,065//	15,815	
合計							

明治四十三年三月末日現在營業用電氣事業比較表
昭和二年三月末日

事業數	資本金	拂込資本金	發電力	電燈數	据付馬力數
明治四十三年三月末日現在數	3,150,000円	2,649,800円	1,065KW	15,815	
昭和二年三月末日現在數	73	36,734,500	388,639.5//	93,567	1663
増加	6	191,809,500	387,574.5//	96,752	1663

備考 明治四十三年以前ノ自家用電氣事業ハ適確ナラサルヲ以テ比較ヲ省ク

三、電氣計器ノ檢定

内地ニ於テハ電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ電氣測定法ノ定ムル所ニ依リ總テ檢定ヲ經ルヲ要スルモノニシテ朝鮮ニ於テモ文化ノ進展ニ伴ヒ電氣ノ利用一般ニ普及シ其ノ取引次第ニ複雑ナラムトスルニ付キ之カ正確安固ヲ期スル爲電氣計器ノ檢定ヲ爲スノ極メテ緊要ナルヲ以テ曩ニ之カ實現ヲ企圖シタル所ニシテ大正十二年四月朝鮮電氣測定令ノ發布ヲ見同年十月施行規則定マリ翌十一月十六日ヨリ計器ノ檢定ヲ開始セリ昭和二年三月末日迄ノ檢定狀況左ノ如シ

電氣計器檢定區別	申請數	合格數	不合格數	證書再交付	月末申請品翌月持越數	手数料
新檢定	九、九七六	八、七五五	一、二二一	—	六五	三三、一三七
再檢定	八四〇	七〇一	一三九	—	一	八四六
再封印	七六六	七〇六	一四	—	六	七六九
再交付	六	—	—	六	—	一、五
證書再交付	—	—	—	六	—	—
計	一一、五八八	一〇、二二二	一、三六六	—	七二	三四、七三〇・五

四、瓦斯事業

朝鮮ニ於ケル瓦斯事業者ハ京城及釜山ニ於テ孰レモ電氣事業者ノ兼營ニ係ルモノニ過ギズ而シテ大正十五年度昭和元年度中ニ於ケル瓦斯發生容量ハ一億九千二百十九萬八百立方呎ニシテ孔口數二萬二千九百十一ヲ算セリ

五、電氣職工ノ養成

朝鮮ニ於ケル電氣事業ノ發達ニ伴ヒ技能ヲ有スル職工ヲ朝鮮ニ於テ求ムルニ難ク從來各電氣事業者事業經營上支障尠カラサルニ鑑ミ之ヲ救濟シテ電氣事業ノ圓滿ナル發達助長ニ資スルト共ニ朝鮮人ニ一定ノ職業ヲ與ヘ彼等生活上ノ安定ヲ得セシメムトスル趣旨ノ下ニ主

トシテ朝鮮人ヲ養成スルノ方針ヲ以テ大正十二年六月二十日電氣課所屬ノ電氣職工養成所ヲ設置シ其ノ事務ヲ開始セリ

六、發電水力調査

由來朝鮮ニ於ケル電氣事業ハ殆ト火力ヲ以テ原動力トナシ來レルモ近時各種工業ノ勃興スルニ伴ヒ其ノ原動力ハ主トシテ永久無盡ノ水力ヲ開發利用セムコトヲ要望スル狀況トナリシヲ以テ當局ニ於テハ曩ニ明治四十四年度ヨリ三箇年繼續事業トシテ發電水力調査事業ニ着手シ鮮内主要河川ニ就キ調査ヲ遂ケ大正三年六月ヲ以テ一應之ヲ終了シタリ然レトモ當時ニ在リテハ鮮内各地ノ産業未タ甚シク隆興ノ域ニ達セサリシ爲調査範圍モ主トシテ電燈電力供給用ニ止メ需要地ニ近接セル地點ヲ採擇シ水力ノ最大要素タル河川流量モ渴水量ヲ程度トシテ課查ヲ行ヒタル結果平時徒ニ多量ノ有用水量ヲ放流スルコトトナリ天然動力ノ經濟的ニシテ且完全ナル利用ヲナシ能ハサルモノアリ

茲ニ於テ前回調査ノ各地點ニ就キ更ニ周密精細ナル河川流量ノ基本的調査ヲナスノミナラス將來ニ於ケル電力需要増加ノ趨勢ニ順應スルタメ前回調査以外ノ諸水系ニ亘リ廣ク各種

調査ヲナス必要アリ故ニ當局ニ於テハ大正十一年度ヨリ五箇年繼續事業トシテ再ヒ發電水力調査事業ヲ遂行スルコトトナリ其ノ後十三年度ニハ豫算ヲ半減シ終了期ヲ一箇年延伸シ更ニ十四年度以降モ事業ヲ縮小シ一箇年繰リ延ヘノ止ムナキニ至リタレトモ調査事業ハ從事者ノ努力ニ依リ略豫定ノ成績ヲ收メツツアリ而シテ各種ノ調査中河川流量實測ノ結果ニ就テハ其ノ資料ヲ朝鮮總督府官報ニ發表スルコトトシ其ノ他調査ノ詳細ニ就テハ追テ調査完了ト共ニ其ノ成績ヲ編纂シテ發電水力調査報告書ヲ發表シ一ハ以テ發電水力ノ經濟的利用推獎促進セシメ一般産業ノ進展ニ資シ一ハ以テ企業者ニ準據スヘキ適確ナル基礎資料ヲ與ヘ企畫上過誤違算ナカラシメムコトヲ期スルニアリ

朝鮮西海岸ハ潮汐ノ干満ノ差甚大殊ニ仁川附近ノ海上ハ世界ヲ通シ有數ナル干満ノ差ヲ有シ茲ニ潮升ヲ利用シ經濟的潮力電氣發生ノ可能性ヲ認メタルヲ以テ當局ニ在リテハ河川發電水力調査ノ傍ラ大正十一年度仁川港外一少區域ニ於テ此カ實地調査ヲナシタル結果隨時七、五〇〇基平均四、五〇〇基ノ電力ヲ發電シ得ルコトヲ確メタルモ此ニ就テハ更ニ一層經濟的ナル發電方法ニツキ目下比較研究中ナリトス而シテ此ノ實地調査ノ結果ヨリ推論スル

遞信歲計

ニ中鮮西海岸ニテハ莫大ナル潮力馬力ヲ包藏スルモノト認メラルルヲ以テ實際ニ之カ利用ヲナスコトヲ得ハ朝鮮産業ノ發達上絶大ナル効果ヲ齎スヘキモノアラム故ニ河川水力調査ト相俟テ將來此カ具體的調査ヲ遂行スル必要アラムト認ムルモノナリ

昭和二年度ニ於ケル遞信局主管歲入歲出豫算額ハ

歲入

經常部

通信事業收入

一一、四三一、九七九圓

其ノ他ノ收入

九、八六三圓

計

一一、四四一、八四二圓

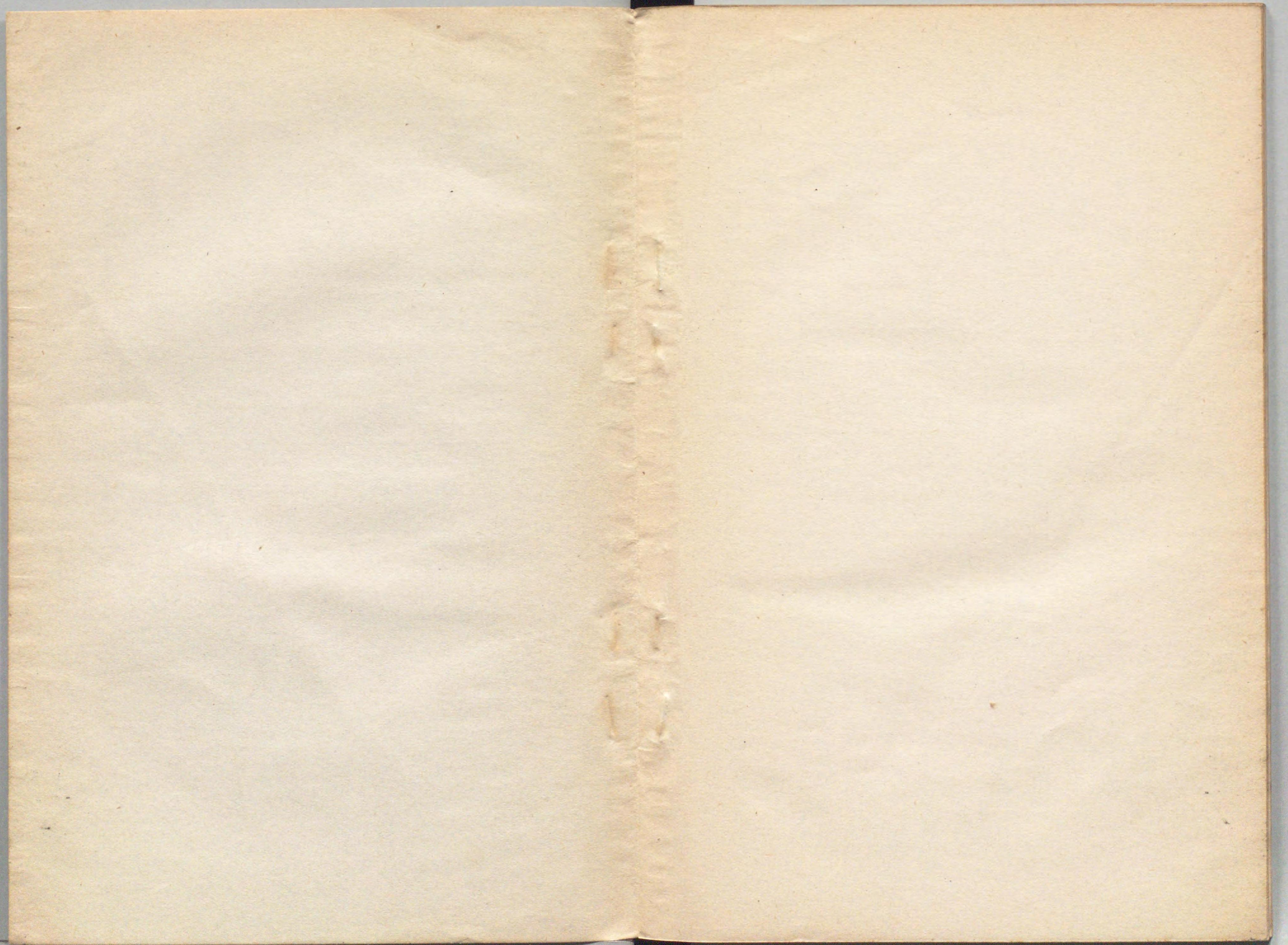
歲出

經常部

通信事業經營費 一〇、七六九、九七七圓
 國庫金取扱費 四四二、八四九圓
 電氣監督費 七五、〇五九圓
 航空事業費 三、〇〇〇圓
 海 事 費 六四八、八四八圓
 計 一一、九三九、七三三圓
 臨時部
 通信事業經營費 九七五、六二〇圓
 海 事 費 一、一二五、七五〇圓
 發電水力調査費 三六、四八〇圓
 警備電話新設費 一〇八、九七一圓
 計 二、二四六、八二一圓
 合 計 一四、一八六、五五四圓

ナリ右ハ遞信事業全體ニ對スル豫算額ナルカ今之ヲ通信事業ノミニ對スル既往五ヶ年間ノ收支關係ヲ(決算額)舉クレハ左ノ如シ

區 別	歲 入	經常歲出	歲出ニ比シ歲入ノ過不足	歲入百圓ニ對スル經常歲出ノ割合	臨時歲出
大正十一年度	10,110,153 円	9,636,500 円	473,753 円	95.293	1,880,083 円
同 十二年度	11,017,791 円	10,031,238 円	984,553 円	91.063	1,535,158 円
同 十三年度	11,130,743 円	10,101,032 円	959,704 円	91.477	843,905 円
同 十四年度	11,910,975 円	10,011,569 円	1,908,406 円	83.991	1,004,578 円
同 十五年度	11,314,130 円	10,105,901 円	2,118,228 円	82.822	1,008,113 円



京城ヨリ主要都市ニ至ル郵便遞送日數

(昭和二年十一月現在)

北	札	新	青	仙	東	名	大	廣	下
京	幌	瀧	森	臺	京	古	阪	島	關
三	五	四	四	四	三	三	二	二	二
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
天	哈	長	大	奉	基	松	鹿	熊	長
津	爾	春	連	天	隆	山	兒	本	崎
三	賓	二	二	二	三	二	二	二	二
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

三日半(船便ノ都合ニ依リ遅ルルコトアリ)

昭和二年十一月刊行(第四版)